



2022年10月期 決算説明会資料

株式会社 **エイチ・アイ・エス**

2022年12月15日

東証プライム:9603

目次

1- 1 決算概要(連結)	…	1
- 2 決算概要(セグメント別)	…	8
2 今後の経営方針	…	24
3 財務方針	…	28
4 各事業セグメントの取り組み	…	34

1-1 決算概要(連結)

会計基準の変更

2022年10月期第1四半期連結会計より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用。当資料におきましては、参考として旧会計基準の数値も併せて反映しております。

■ 旅行事業における主な変更点

	①売上高の計上金額		②計上のタイミング	
	旧基準	新基準	旧基準	新基準
ツアー(企画旅行)	総額	「本人取引」 =総額(※1)	出発日	進行日 (※2)
航空券(手配旅行)	総額	「代理人取引」 =純額	出発日	手配完了日(※3)

※1. 燃油サーチャージ、空港使用料などは第三者のための回収にあたるため除く。

※2. 旅行期間にわたり、日割りで収益を認識。

※3. お客様との契約上、「手配が完了した時点=手配完了日」が当社のサービス提供完了時。

※4. インセンティブについては、手配旅行は「手配売上」、企画旅行は「仕入割戻」とする。

※5. 旅行以外の取引に関しても基本的な考え方は「本人取引」か「代理人取引」かで、区別する。

原則は全ての取引（旅行以外）が新基準の適用範囲ではあるが、重要性の観点より適用外。

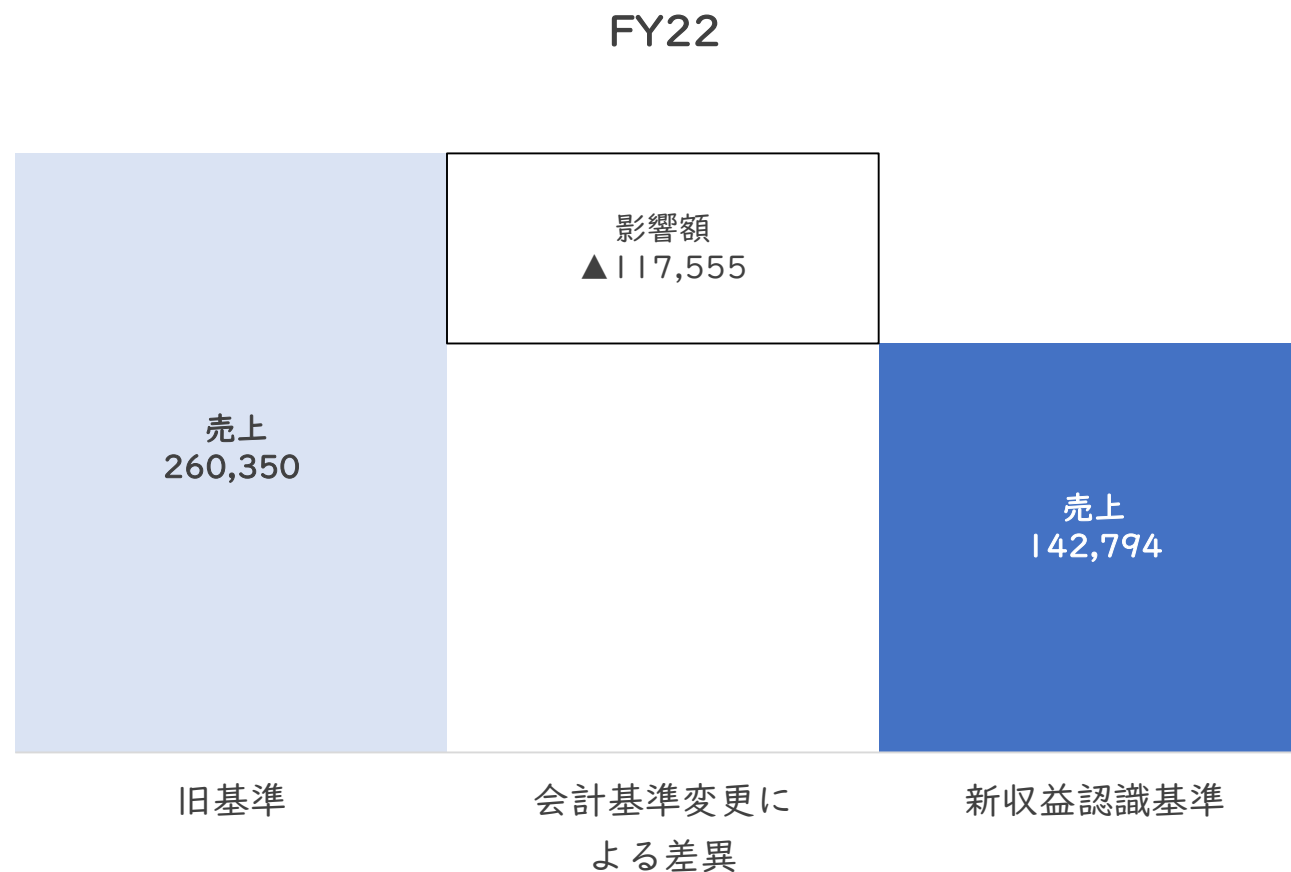
■ テーマパーク事業の表示方法変更

従来「販売費及び一般管理費」として表示していたテーマパーク事業の運営に係る費用の一部を「売上原価」として表示する方法に変更。前期の数値も遡及修正済。

会計基準の変更

「新収益認識基準」の適用による旧会計基準の売上高の差異

(百万円)

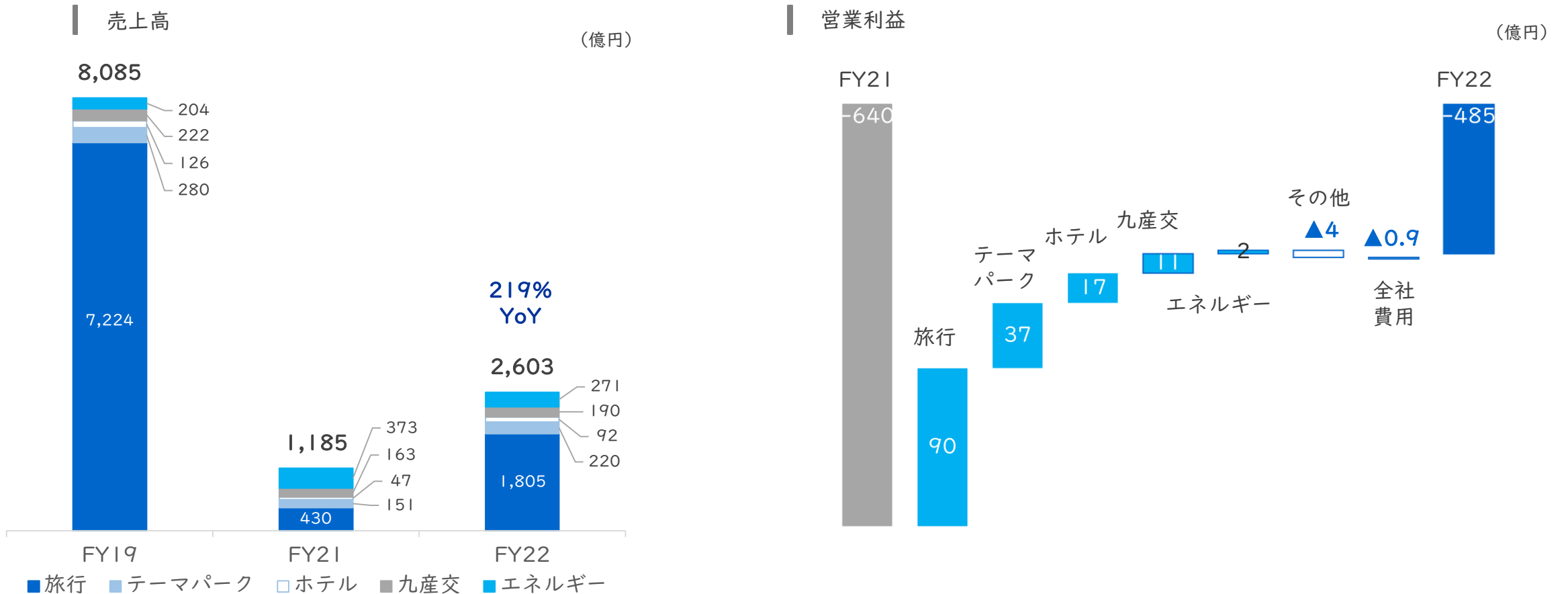


連結業績

(百万円)	旧基準 (参考)			新基準	YoY	前期差	対旧基準 主な増減要因
	FY19	FY21	FY22	FY22			
売上高	808,510	118,563	260,350	142,794	220%	141,786	旅行 +137,545、テーマパーク+6,919、ホテル +4,449 九産交+2,659
売上総利益	134,270	7,522	27,599	28,257	367%	20,076	
営業利益	17,540	▲64,058	▲48,592	▲47,934	- %	15,465	旅行 +9,075、テーマパーク +3,730、ホテル+1,745 九産交+1,157
EBITDA	27,263	▲50,938	▲35,494	▲34,836	- %	15,444	
営業外収益	3,527	4,538	3,129	3,129	69%	▲1,409	受取利息▲492、補助金収入▲270
営業外費用	3,978	3,779	4,196	4,196	111%	416	支払利息+825
経常利益	17,089	▲63,299	▲49,660	▲49,001	- %	13,639	
特別利益	4,140	20,766	54,543	54,543	263%	33,776	関係会社売却益 40,448、補助金収入▲6,910
特別損失	877	8,475	13,764	13,764	162%	5,288	減損 1,563、関係会社株式売却損 8,405 投資有価証券評価損▲1,595、臨時休業による損失▲2,212
税引前利益	20,352	▲51,008	▲8,880	▲8,222	- %	42,127	
法人税等	6,477	2,234	2,833	2,833	127%	599	
非支配株主に帰属する 当期純利益	1,625	▲3,192	▲1,513	▲1,508	- %	1,678	
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,249	▲50,050	▲10,200	▲9,547	- %	39,849	

売上高・営業利益（旧基準）

- 売上高は、渡航制限の解除や、全国旅行支援などによる人流の再開がみられたことにより、**1,417億円の増収（YoY219%）**。
- 営業利益は、旅行事業をはじめとした主要事業が好調に推移し、**154億円増益**の485億円の営業損失。

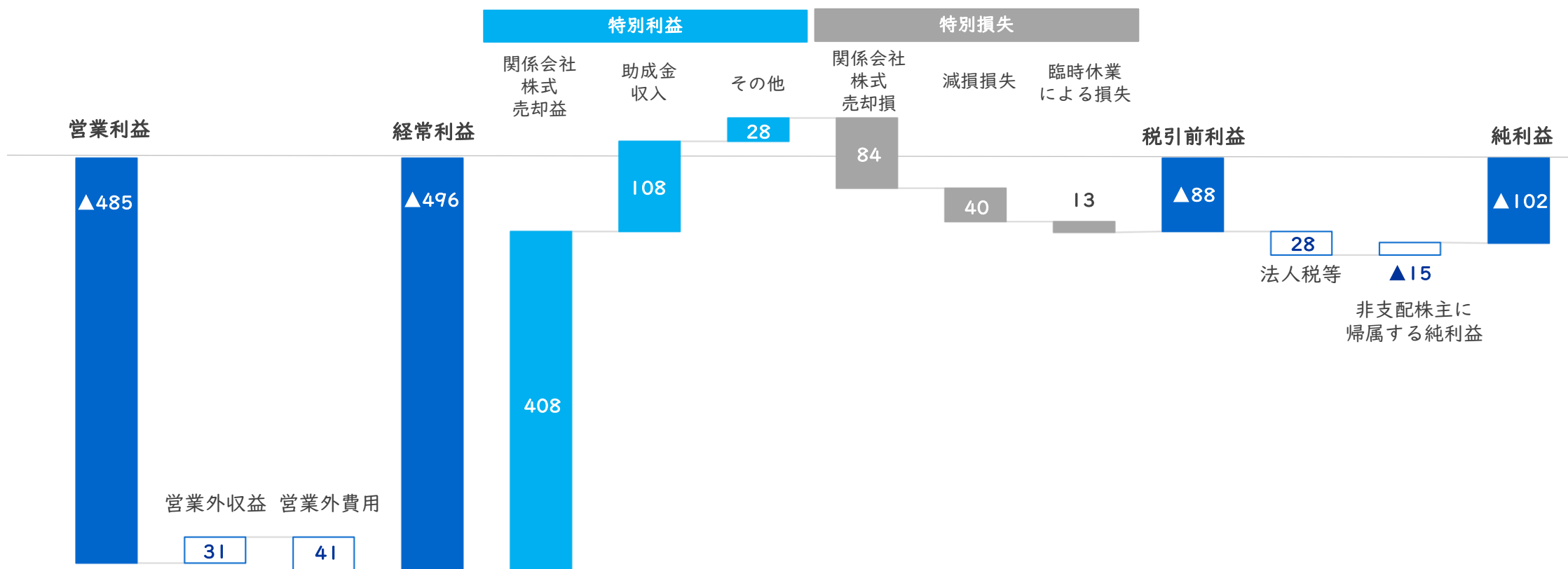


経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益（旧基準）

- ハウステンボスの売却による関係会社売却益等により**特別利益545億円**を計上。
- 一方、HIS SUPER電力・HTBエナジーの売却による関係会社売却損等により**特別損失137億円**を計上し**102億円の当期純損失**（398億円の増益）。

純利益までの主な増減

（億円）



H.I.S. SUPER電力(株) 売却

■ H.I.S.SUPER電力株式会社株式譲渡に伴る業績への影響

(1) 対象会社の概要	名称	H.I.S.SUPER電力株式会社			
	事業内容	発電事業 (→報告セグメントは「エネルギー事業」)			
	最近3年間の業績等 (単位:百万円)		2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期
		売上高	2	52	72
		営業利益	△68	△44	△568
		純資産	△112	△190	△790
総資産	6,828	7,242	9,004		
(2) 譲渡の概要	譲渡先	九州おひさま発電株式会社 (南国殖産株式会社100%子会社)			
	当社の持株比率	譲渡前: 100% → 譲渡後: -%			
	譲渡価額	2,044百万円			
	株式譲渡日	2022年10月31日 (=FY22)			
(3) 業績への影響	FY22 4Q	連結で5,410百万円、個別で6,814百万円の特別損失を計上。			
	FY23以降	連結範囲から除外します。			

連結B/S 前期末比

	FY19	FY21	FY22		FY19	FY21	FY22
現金及び預金	219,175	101,411	144,795	営業未払金	38,082	12,978	6,698
受取手形及び売掛金	45,653	16,718	11,538	旅行前受金	92,760	14,112	14,256
営業未収入金	4,287	171	298	社債・転換社債	55,090	45,054	45,036
旅行前払金	52,102	8,927	6,231	長期借入金	146,403	184,643	156,727
その他	27,061	16,266	25,629	その他	121,153	90,511	135,631
流動資産計	348,280	143,495	188,493	負債計	453,490	347,301	358,348
有形固定資産	147,098	201,291	170,356	資本金	11,000	21,048	100
無形固定資産	26,576	20,107	17,908	資本剰余金	3,392	13,328	28,498
のれん	7,305	4,621	2,369	利益剰余金	112,409	22,275	26,327
投資その他資産	55,275	46,263	38,009	自己株式	▲28,309	▲15,004	▲14,972
固定資産計	228,951	267,662	226,274	その他の包括利益 累計額	▲1,719	▲1,020	7,466
繰延資産計	168	289	217	非支配株主持分	27,135	23,360	8,815
資産合計	577,399	411,447	414,984	純資産計	123,909	64,145	56,636
				負債・純資産合計	577,399	411,447	414,984

※FY22より「受取手形、売掛金及び契約資産」として表示しております。詳細は短信をご覧ください。

1-2 決算概要（セグメント別）

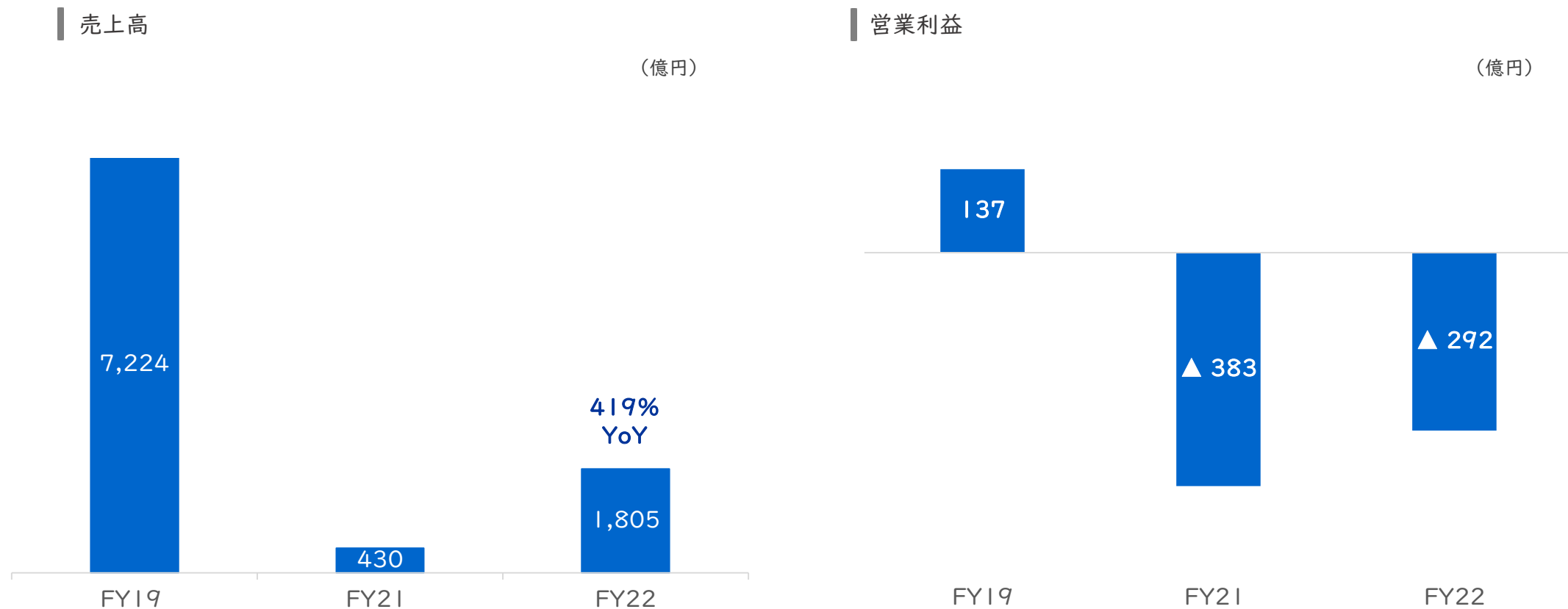
セグメント業績

	セグメント	旧基準 (参考)			新基準	対旧基準 (百万円)	
		FY19	FY21	FY22	FY22	YoY	前期差
売上高	旅行事業	722,464	43,028	180,574	67,693	420%	137,545
	テーマパーク事業	28,086	15,126	22,046	21,225	146%	6,919
	ホテル事業	12,676	4,757	9,207	9,207	194%	4,449
	九州産交グループ	22,230	16,362	19,021	17,960	116%	2,659
	エネルギー事業	20,461	37,351	27,152	24,376	73%	▲10,198
	その他	8,376	3,701	4,331	4,315	117%	629
	調整・消去等	▲5,785	▲1,764	▲1,983	▲1,983	-	▲219
営業利益	旅行事業	13,754	▲38,336	▲29,261	▲28,629	-	9,075
	テーマパーク事業	5,075	▲3,559	170	183	-	3,730
	ホテル事業	▲217	▲5,868	▲4,122	▲4,122	-	1,745
	九州産交グループ	158	▲2,712	▲1,554	▲1,554	-	1,157
	エネルギー事業	974	▲10,264	▲9,985	▲9,978	-	278
	その他	589	▲981	▲1,410	▲1,402	-	▲428
	調整・消去等	▲2,795	▲2,335	▲2,429	▲2,429	-	▲93
EBITDA	旅行事業	17,980	▲33,840	▲25,264	▲24,632	-	8,576
	テーマパーク事業	7,175	▲1,439	2,228	2,240	-	3,668
	ホテル事業	1,059	▲2,557	▲192	▲192	-	2,365
	九州産交グループ	1,203	▲846	309	309	-	1,156
	エネルギー事業	1,050	▲9,723	▲9,383	▲9,376	-	340
	その他	1,077	▲609	▲1,136	▲1,129	-	▲527
	調整・消去等	▲2,283	▲1,921	▲2,056	▲2,056	-	▲135

旅行事業（旧基準）

売上高は、コロナ禍の段階的な水際対策の緩和により、海外における旅行事業の回復により、**1,375億円の増収の1,805億円（YoY 419%）**。

営業利益は、基幹事業であり収益性の高い海外旅行事業の回復が遅れており、コスト削減の徹底に努めたものの、**営業損失292億円（90億円の改善）**。

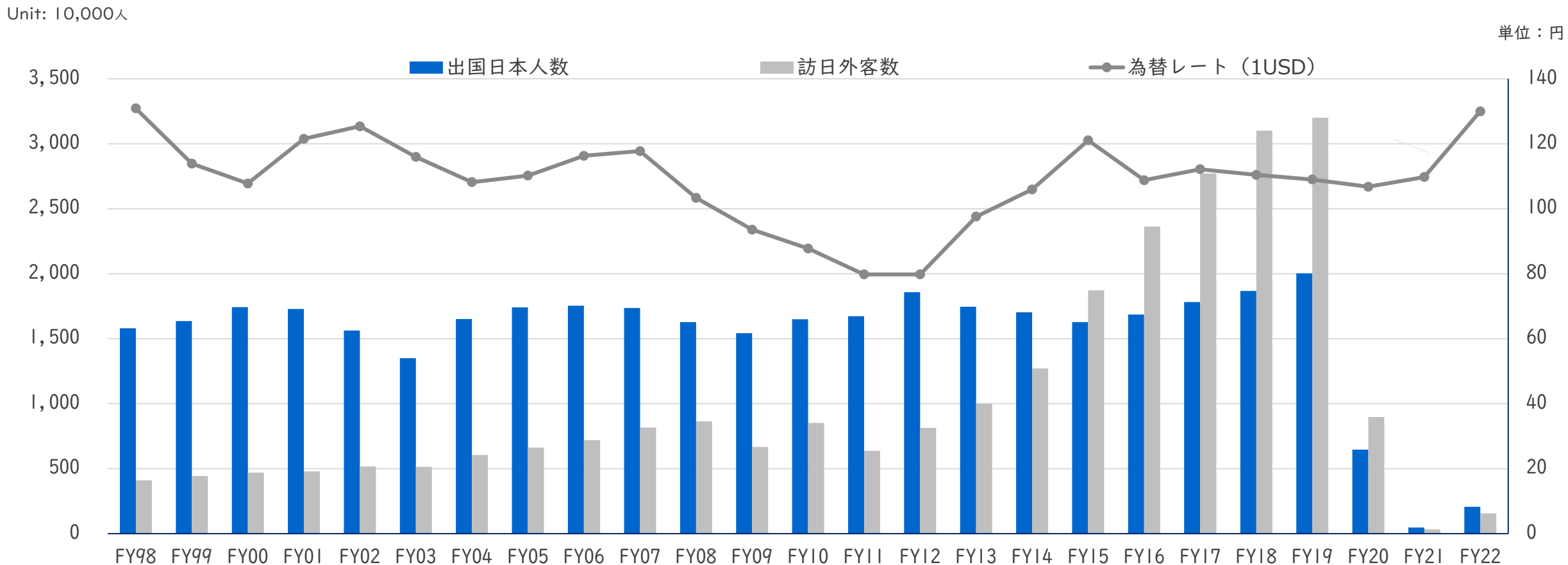


旅行事業 サブセグメントP/L 四半期

(百万円)	FY19				計	FY21				計	FY22				計
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	
旅行事業 売上高 計	166,617	170,213	175,444	210,188	722,464	15,737	10,613	6,772	7,237	43,028	23,956	29,904	49,498	77,216	180,574
YoY	114%	107%	116%	107%	110%	9%	8%	14%	52%	12%	152%	281%	730%	1,660%	419%
海外旅行取扱高	87,899	110,754	86,748	116,545	401,948	1,122	842	1,114	1,877	4,957	2,119	3,169	9,692	20,683	35,665
YoY	106%	114%	98%	97%	103%	1%	2%	97%	190%	3%	188%	376%	870%	1,101%	719%
内、燃油サーチャージ	6,030	8,005	4,308	6,957	25,302	21	18	32	81	153	119	250	1,069	3,080	4,520
国内旅行取扱高	11,941	17,576	13,693	18,044	61,255	11,297	4,459	3,062	4,916	23,736	8,686	7,621	10,218	15,281	41,808
YoY	101%	106%	99%	99%	101%	96%	54%	289%	68%	84%	99%	170%	333%	310%	176%
訪日旅行取扱高	7,116	8,075	8,375	6,085	29,997	34	16	13	58	123	28	74	81	210	395
YoY	119%	105%	88%	87%	96%	0.6%	2%	27%	30%	1%	82%	451%	623%	362%	321%
海外法人インバウンド 取扱高	56,070	35,339	41,186	50,748	183,343	2,169	1,579	1,176	2,574	7,498	4,451	4,690	4,834	16,277	30,253
YoY	127%	106%	107%	98%	109%	3%	4%	6%	312%	6%	205%	296%	411%	632%	403%
海外法人アウトバウンド 取扱高	19,719	20,213	40,124	40,242	120,298	1,167	3,013	1,968	4,480	10,628	10,843	14,743	27,370	31,260	84,218
YoY	104%	100%	188%	205%	150%	2%	5%	10%	-	9%	929%	489%	1,390%	697%	792%
内部取引相殺消去 調整等	▲16,128	▲21,744	▲14,682	▲21,476	▲74,377	2,616	704	▲561	▲6,668	▲3,068	▲2,171	▲394	▲2,700	▲6,495	▲11,765

[補足資料] 旅行市場概況

為替変動により出国日本人数の変動は見られるものの、一定数の市場は保たれており、アフターコロナの需要回復は、各国の観光受け入れ体制と、移動手段である航空座席供給数の回復が必須

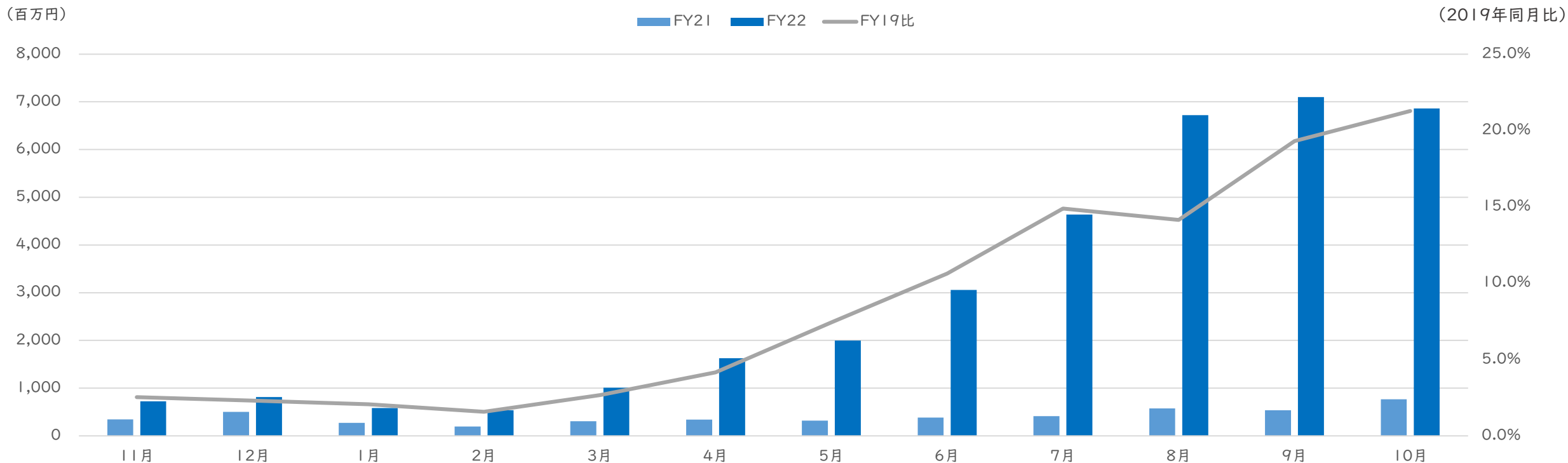


年間平均為替レート 出典：IMF ※FY22は、1月～最新月の平均レート

出典：日本政府観光局 Period：11月～10月

旅行事業 海外旅行の月次取扱高推移

ハワイツアーを皮切りに5月より自社主催のツアーを2年ぶりに再開。水際対策の段階的な緩和に伴い、回復の動きが表れているものの、国際線航空座席供給数の回復遅れにより、本格的な市場回復には至っていない。



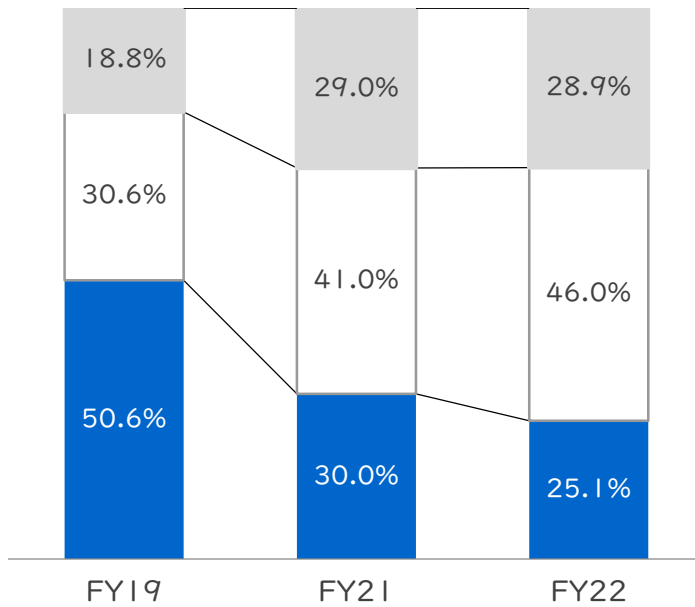
<直近1年の1日当たりの入国者数上限規制・緩和の動き>

- ・2021/11/30：3,500人（外国籍の新規入国原則停止）
- ・2022/3/1：5,000人（観光目的以外の外国籍の入国認める）
- ・2022/3/17：7,000人
- ・2022/4/10：10,000人
- ・2022/6/1：20,000人（6/10～添乗員付きツアー限定で外国人観光客受け入れ）
- ・2022/9/7：50,000人（添乗員なしツアーも外国籍受入/帰国時ワクチン接種3回で陰性証明不要）
- ・2022/10/11：制限解除（訪日、自由旅行受入れ開始）

[補足資料] 海外旅行構成比

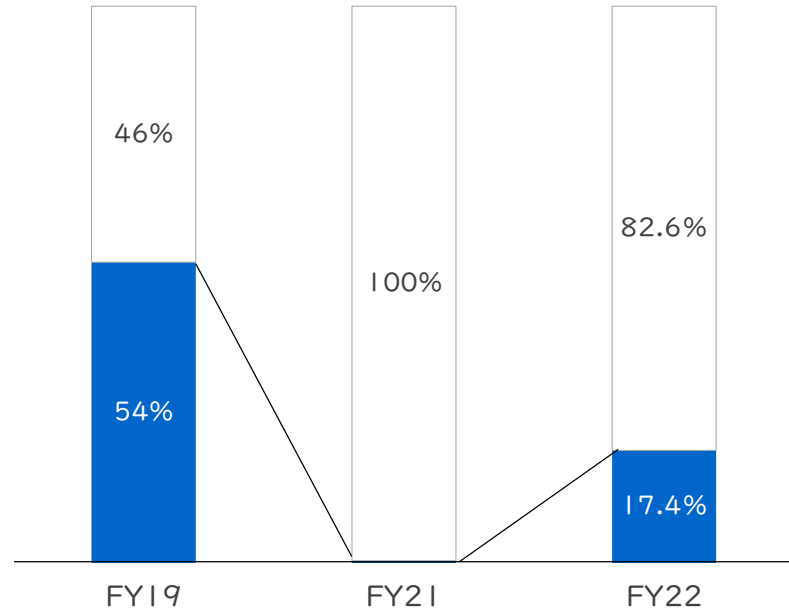
海外旅行チャネル別 売上高

■店舗 □インターネット ■コーポレート



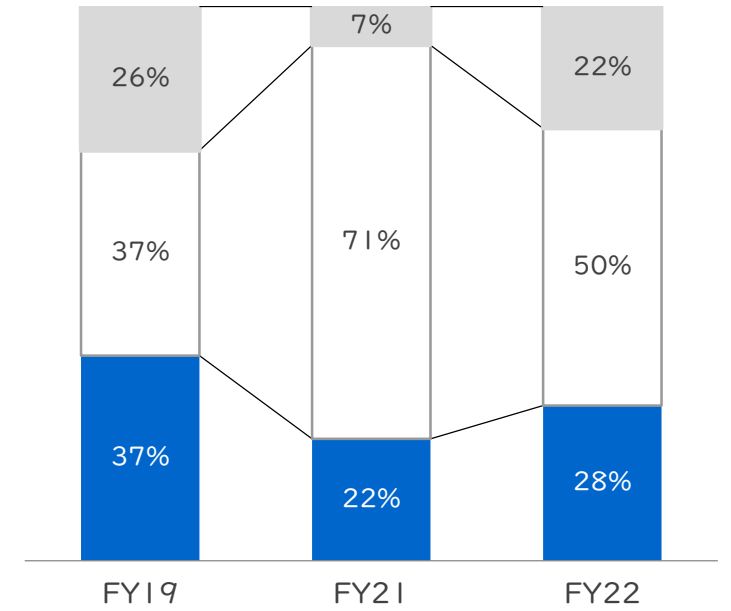
海外旅行送客別 商品種別

■海外ツアー □海外航空券



海外旅行方面別 売上高

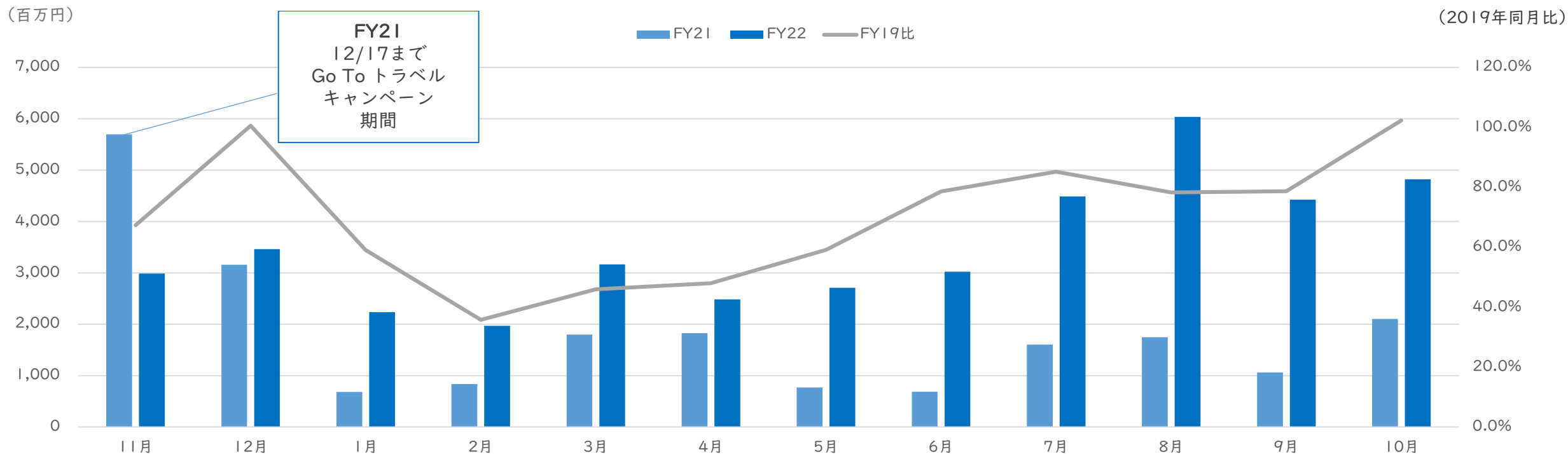
■アジア □欧米豪 ■ハワイ・ミクロネシア



※新型コロナウイルス感染拡大によるツアー催行中止の影響により、FY21の構成比は大きく変動

旅行事業 国内旅行の月次取扱高推移

国内旅行は、GW明けより市場が活発に動き出し、「県民割・ブロック割」によりマイクロツーリズム需要の高まりがみられた。10月には、全国旅行支援が実施されたことが追い風となり、10カ月ぶりに2019年同月比を上回った。



※各自治体において県民割の実施

※1/9~3/21 まん延防止等重点措置

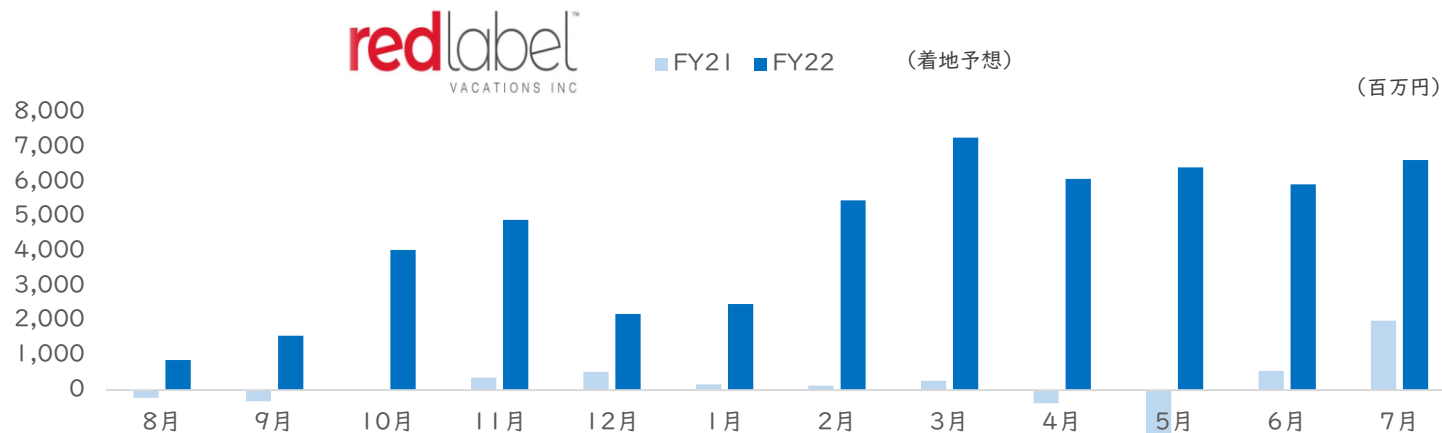
※4/1~県民割が地域ブロック割へ拡大

※10/11~全国旅行支援の実施

※エイチ・アイ・エス及び同グループ5社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高合計

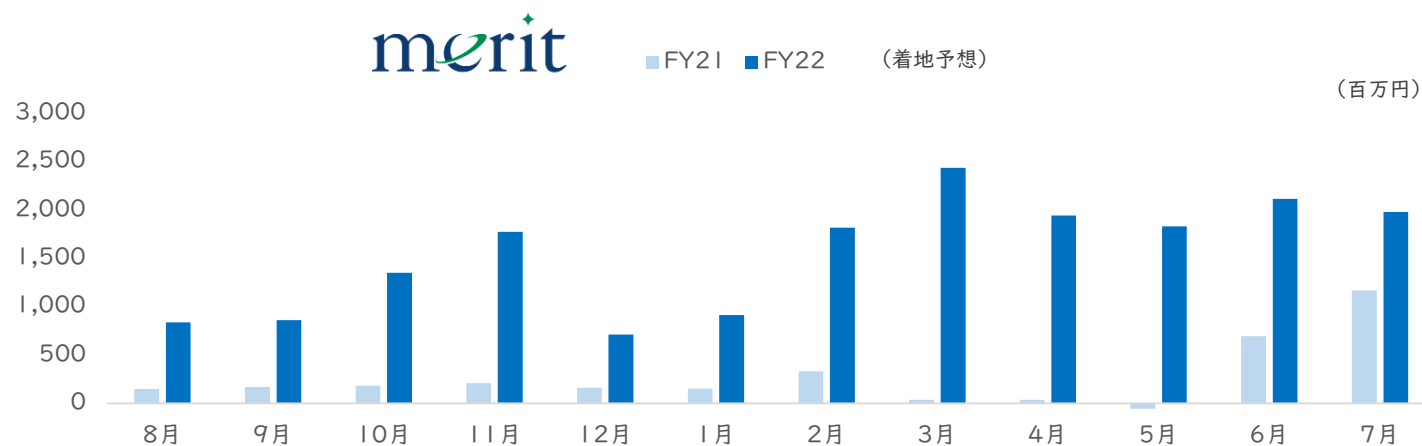
旅行事業 海外子会社の月次取扱高推移

ローカルマーケットのアウトバウンド事業は、カナダ子会社を中心に早期に業績回復へ



Red Label Vacation 売上高 (北米アウトバウンド事業)

カナダ発の欧州・カリブ方面への送客を中心に展開。2022年2月以降カナダ国内の規制緩和以降、B2Cのニーズの高まりを受け、好調に推移。FY22 4QとFY19 4Q対比において77.6%まで回復。



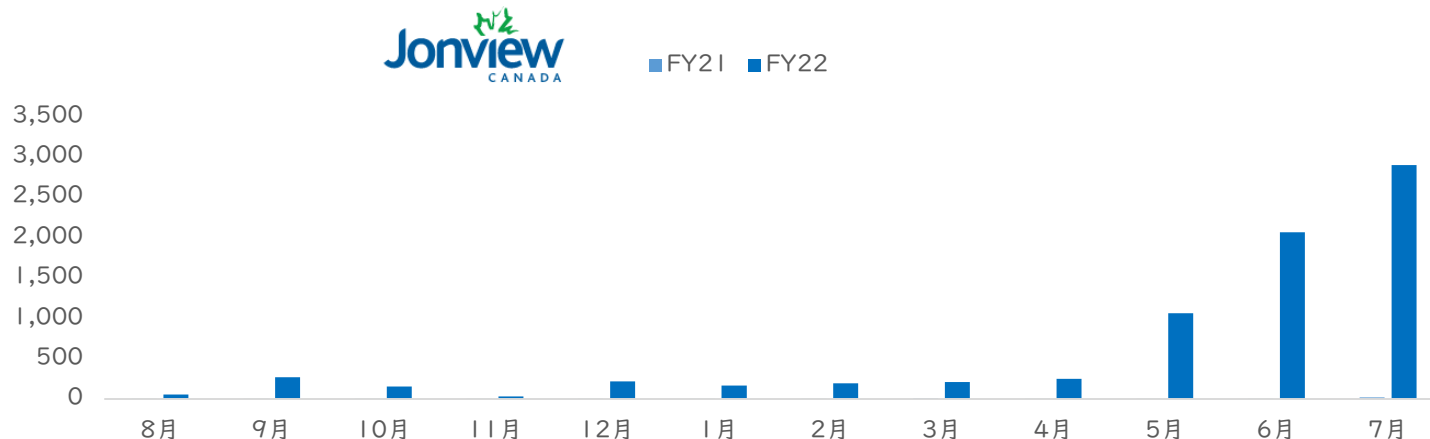
Merit Travel 売上高 (北米アウトバウンド/インバウンド事業)

主に、B2Bの法人旅行事業とロイヤリティプログラムのビジネスにより業績の回復へ。FY22 4QとFY19 4Q対比において71.9%まで回復。

■ FY21：2020年8月～2021年7月
 ■ FY22：2021年8月～2022年7月
 ※海外における旅行事業は、7月が期末であるため、3カ月期ズレ

旅行事業 海外子会社の月次取扱高推移

ローカルマーケットのインバウンド事業は、欧州・カナダ拠点の子会社で展開

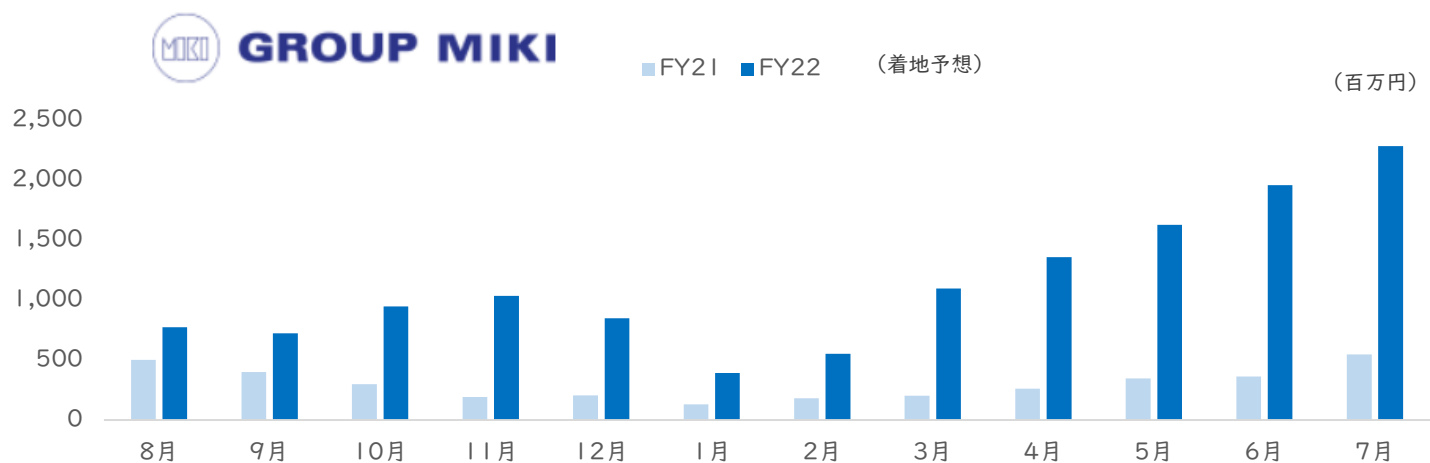


■ Jonview 売上高

(北米インバウンド事業)

カナダを拠点に主に欧州からのインバウンド事業。夏のカナダはベストシーズンであり、欧州からの受客も復活し、急回復へ。

FY22 4QとFY19 4Q対比において79.9%まで回復。



■ Group Miki Holdings 売上高

(欧州インバウンド事業)

日本人と日本人以外マーケットからの欧州におけるインバウンド事業。日本人以外のマーケットに展開するB2Bホテルオンラインビジネス「E-BIZ」から回復をみせる。

FY22 4QとFY19 4Q対比において42.2%に回復。

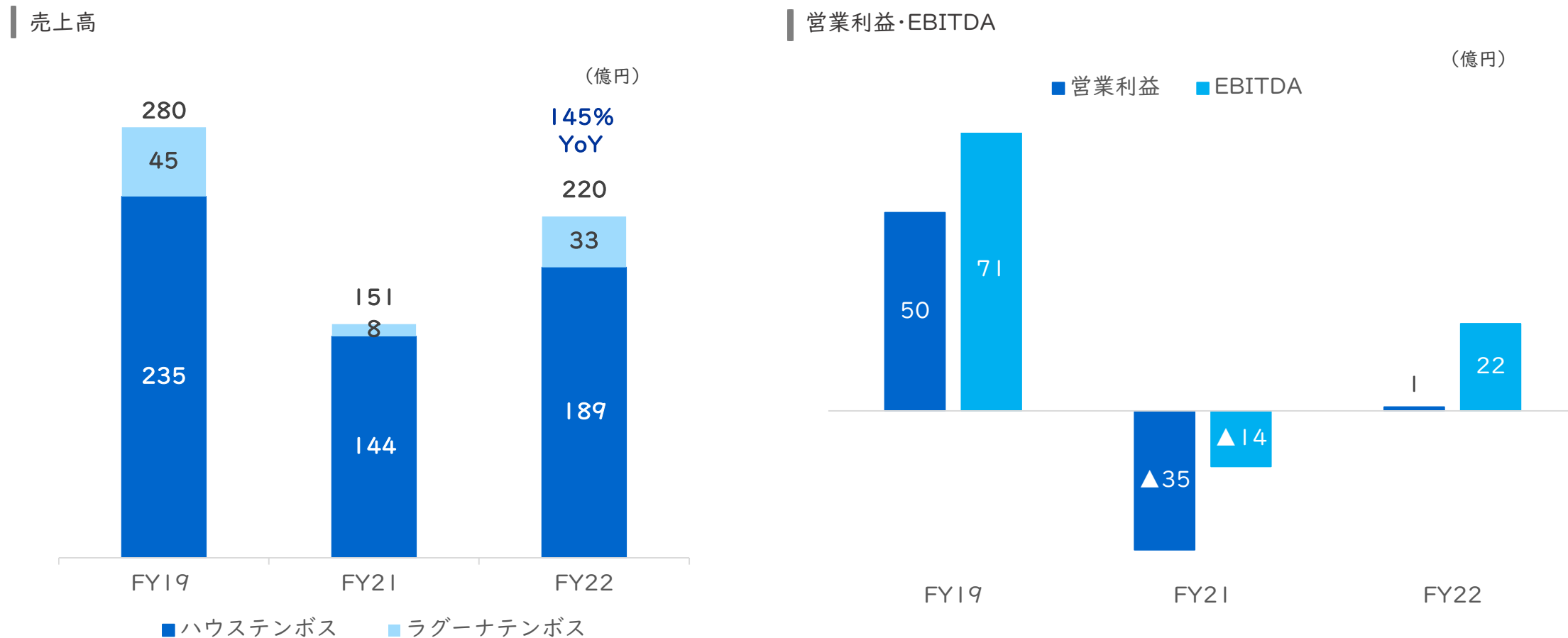
FY21：2020年8月～2021年7月

FY22：2021年8月～2022年7月

※海外における旅行事業は、7月が期末であるため、3カ月期ズレ

テーマパーク事業（旧基準）

ハウステンボスでは、開業30周年を記念したアニバーサリーイベントや、季節に応じた環境演出に重点を置いた各種イベントが好評を得るなど、テーマパーク事業を牽引。売上高は220億円(YoY 145%)、営業利益は1.7億円(37億円の増益)



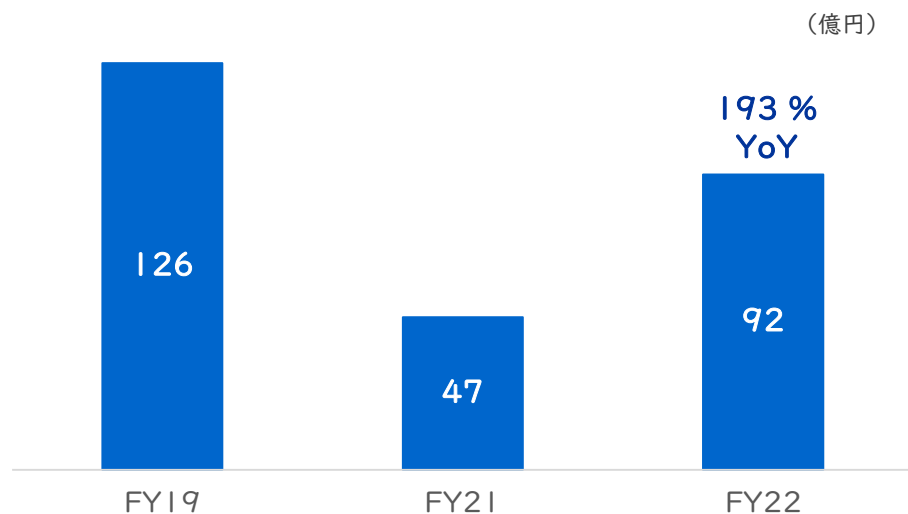
ハウステンボス単独 P/L 四半期

(百万円)	FY19					FY21					FY22				
	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
取扱高 (連結調整前)	7,079	5,968	6,133	6,406	25,586	5,891	1,759	2,143	2,446	12,239	6,302	3,320	4,399	4,916	18,937
YoY	96%	83%	96%	85%	90%	96%	55%	300%	108%	99%	107%	188%	205%	200%	154%
営業利益	1,894	1,277	1,112	1,012	5,295	1,236	▲1,454	▲1,290	▲1,293	▲2,801	1,106	▲706	▲138	14	276
YoY	92%	61%	86%	56%	73%	145%	-	-	-	-	89%	-	-	-	-
入場者数 (万人)	70.8	59.6	60.4	63.7	254.7	60.9	19.0	21.5	26.2	127.7	70.2	36.7	48.6	52.6	208.2
YoY	97%	89%	97%	90%	93%	88%	53%	210%	108%	92%	115%	193%	226%	200%	163%
内、海外客数 (万人)	3.5	4.2	4.5	4.0	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
YoY	82%	89%	89%	93%	88%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宿泊客数 (万人)	7.3	7.0	6.3	7.7	28.4	8.9	1.6	1.8	3.3	15.7	8.4	4.6	6.3	8.2	27.5
YoY	96%	85%	96%	97%	94%	135%	42%	1056%	86%	109%	94%	287%	349%	248%	175%
単価 (円：10円単位切捨て)	9,900	10,000	10,100	10,000	10,000	9,600	9,200	9,900	9,300	9,500	8,900	9,000	9,000	9,300	9,000
増減	-100	-770	±0	-600	-400	+800	+200	+3,000	±0	+1,000	-700	-200	-900	±0	-500

ホテル事業（旧基準）

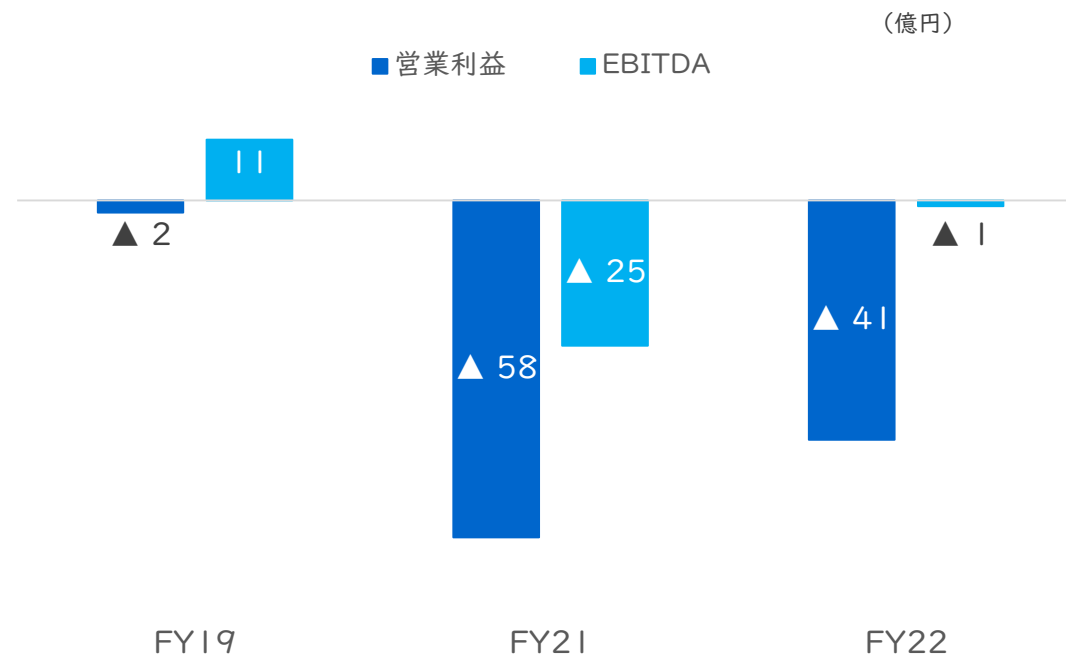
- 軒数増加と行動制限の解除により**大幅な増収**、**利益もEBITDAベースで大幅改善**。19年水準には至らないものの回復基調。
- 新たに、ソウル・ニューヨーク・タシケント・宮古島に新規開業。当期は4軒増加し合計40軒へ。

売上高



ホテル軒数	FY19	FY21	FY22
国内	13	21	22
海外	19	17	18
合計	32	38	40

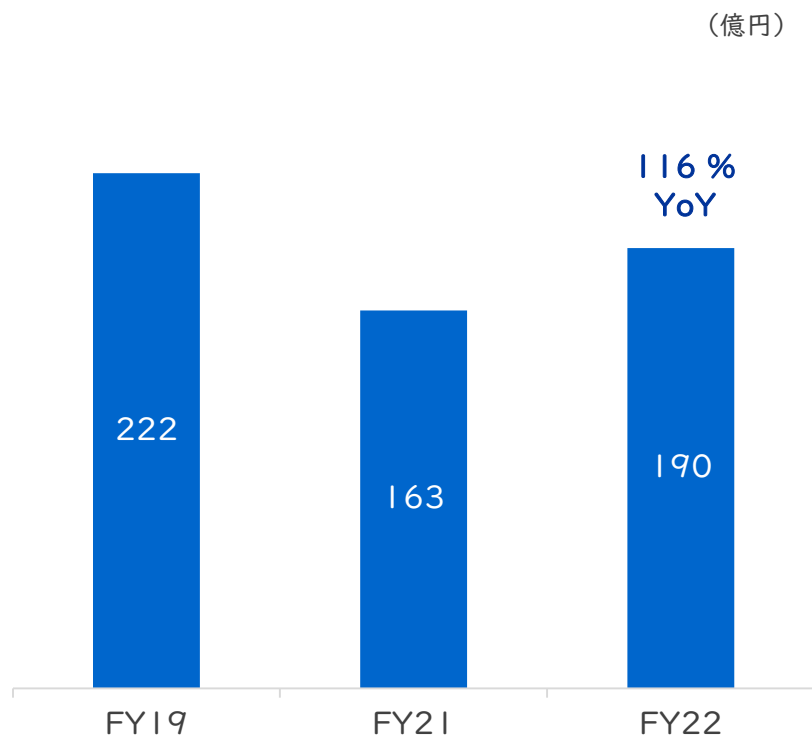
営業利益・EBITDA



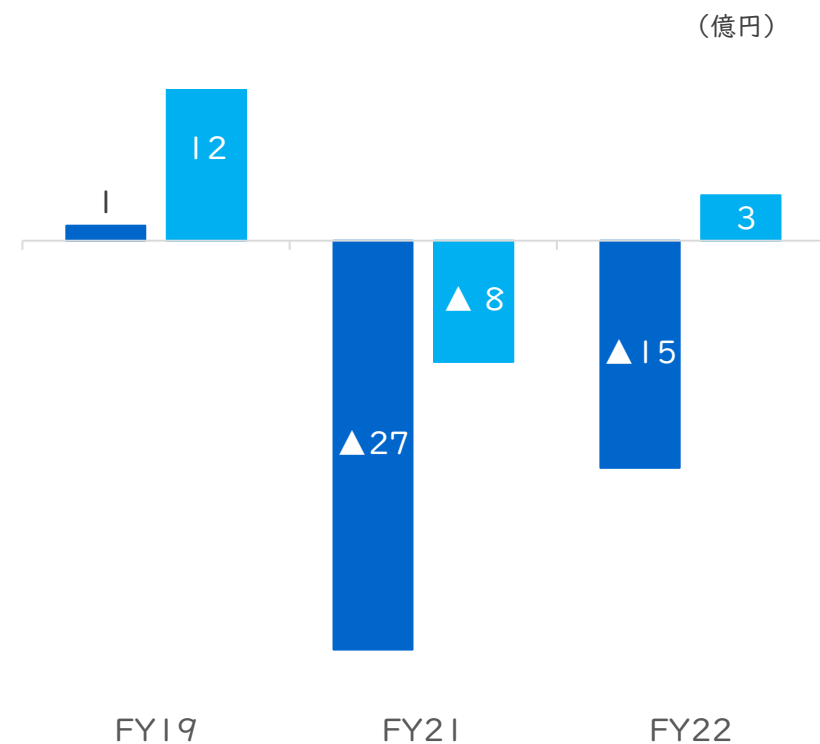
九州産交グループ（旧基準）

- 路線バスの輸送人員増加や、高速バスの運行再開、サクラマチクマモトの入館者増加など一部回復傾向に。
- 行動抑制策などの継続により本格的な回復には至らなかったものの、**営業損失は11億円改善の15億円、EBITDAは11億円改善の3億円**を計上。

売上高

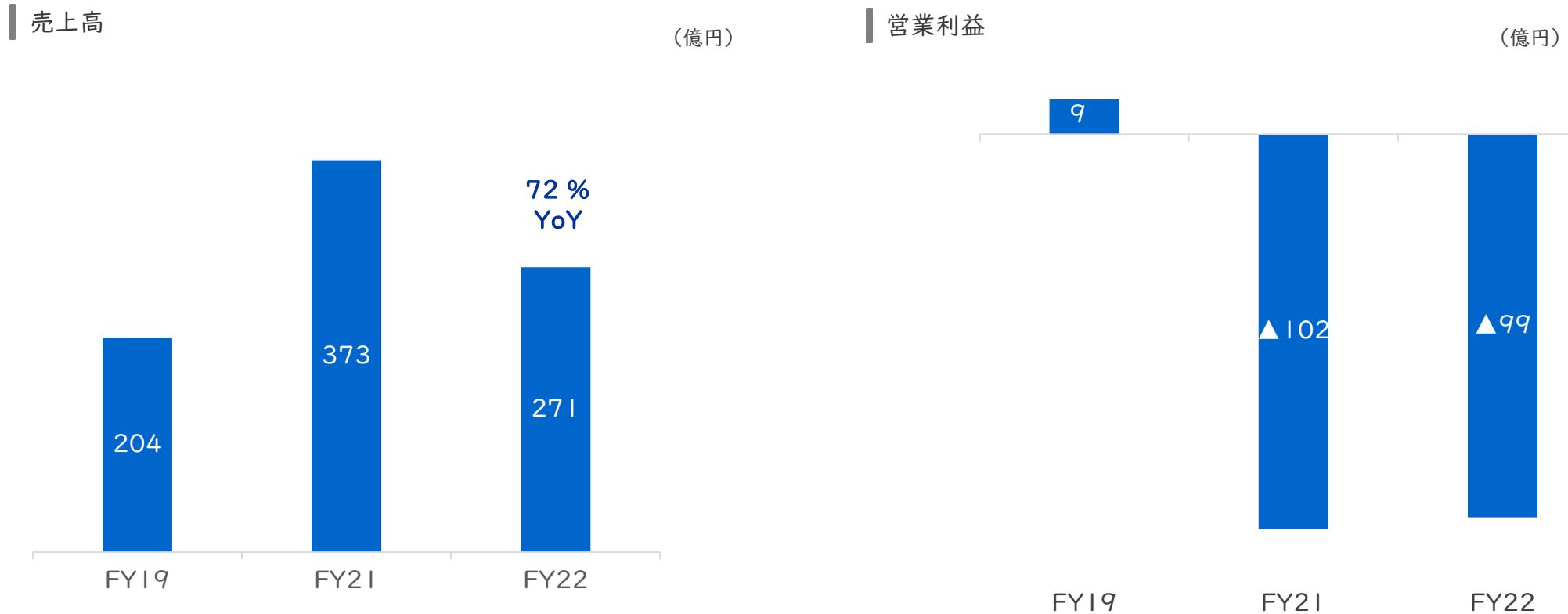


営業利益



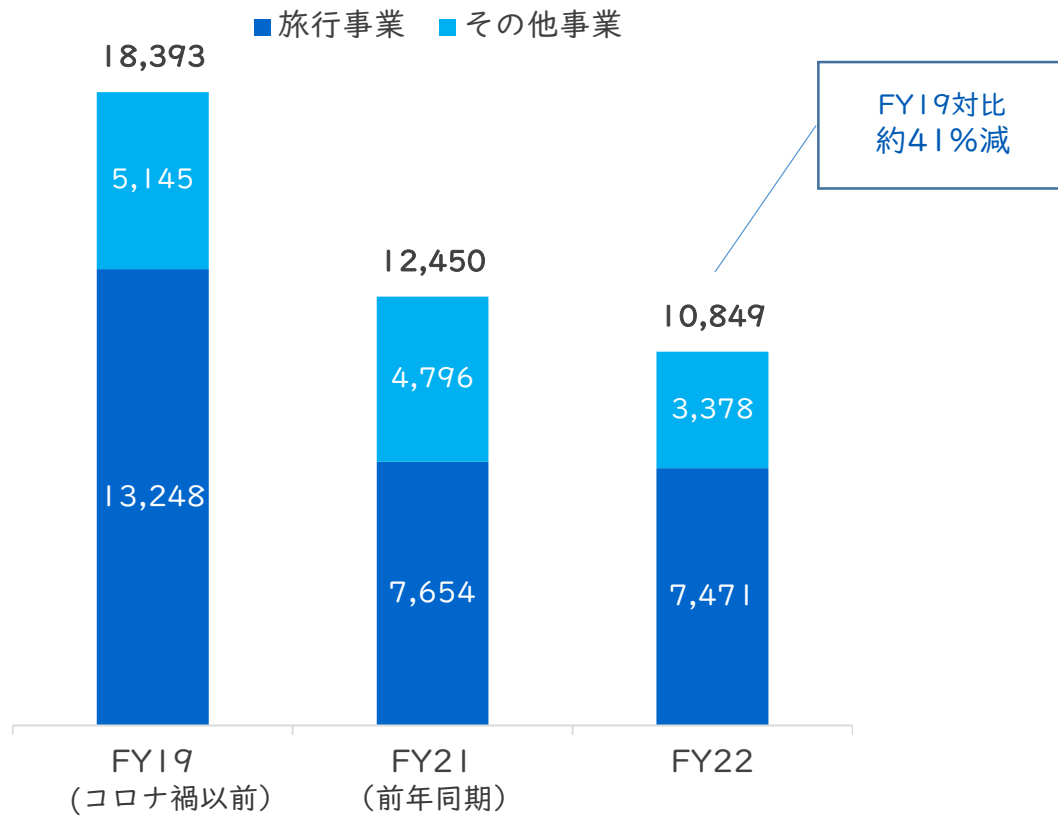
エネルギー事業（旧基準）

- 電力小売事業では調達電源の価格高騰の常態化、発電事業は燃料となるパーム油の価格高騰を受け、**99億円の営業損失**。
- 電力小売事業は2022年5月に、発電事業は2022年10月に、全株式の譲渡が完了。

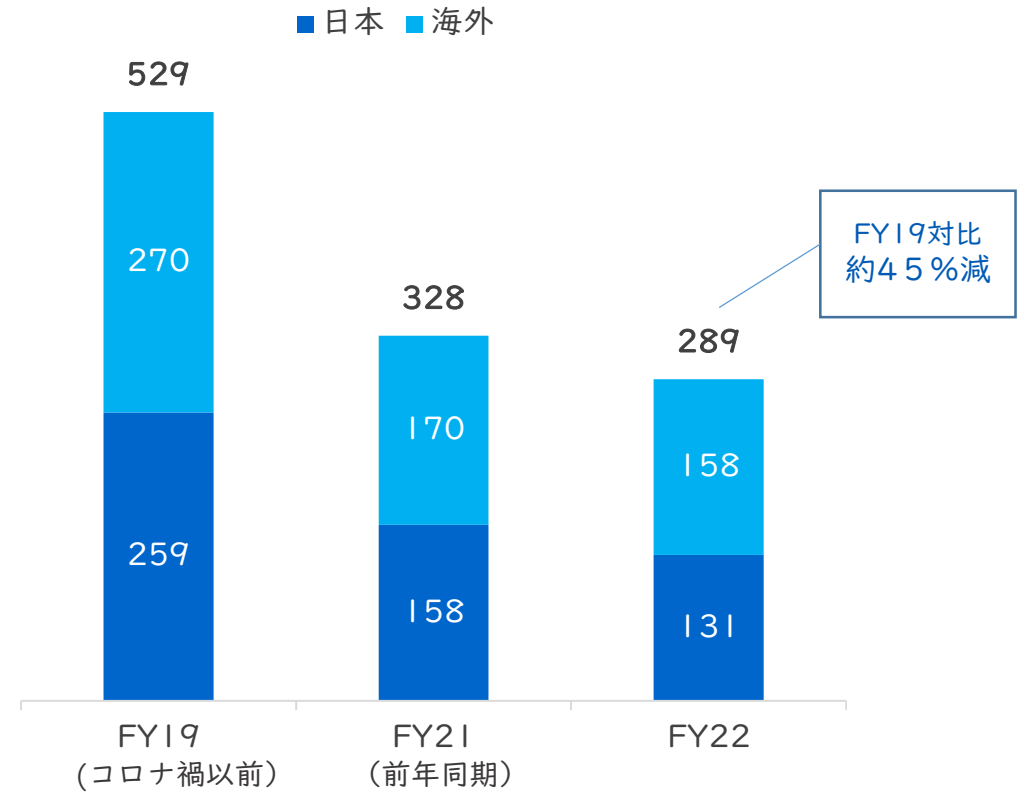


[参考データ]

グループ従業員数



旅行業の営業拠点数



※日本の拠点数: 特約店・代理店を除く/海外の拠点数: 10月末時点

2 今後の経営方針

事業構造改革

旅行事業の深化

非旅行事業の探索

D Xの深化

店舗の多機能化

組織のスリム化

マインド改革

パーパス導入

原点の再確認

グループの意識統一

判断基準の整理

財務改革

自己資本比率の改善

B/Sのスリム化

コスト削減

旅行事業の「深化」

HISでしか体験できない旅の提供
持続可能な観光の提供

海外旅行事業

需要喚起・活性化を図る

国内旅行事業

「国内旅行もHIS」へ

訪日旅行事業

再開におけた準備

海外の旅行事業

シェア拡大

非旅行事業の「探索」

自治体の事業受託の強化

企業連携共同事業の展開

既存の事業領域の拡大

リソースを活かしたシナジー効果

M&A・投資の展開

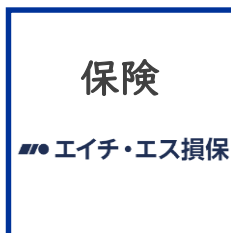
新規事業の開発

自社プロジェクトを推進

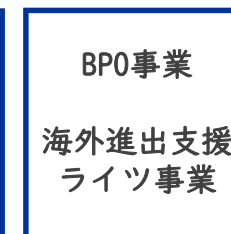
事業構造改革 事業ポートフォリオの再構築

中長期において旅行関連事業と非旅行事業の利益を1:1へ

旅行関連事業



非旅行事業



HIS Group Purpose

ココロオドル

「心躍る」を解き放つ

未知との出会い、人との繋がり、豊かな時間、ワクワク、高揚感、そして平和への想い。
私たちは「心躍る」を解き放ち、未だ見ぬ世界をつくるため、冒険する挑戦者で在り続けます。

3 財務方針

当面の課題

1. 早期の黒字化

コストに関しては、固定費の削減に注力も、旅行需要の回復時には機動的に対応。

2. 手元流動性の確保

グループ会社および事業資産の売却・流動化。グループ内資金の集中・管理。
設備投資は、従前の見直しに捉われず、四半期毎での見直しを継続。
コミットメントライン等の継続。

中長期的な目標

B/Sのスリム化（資産の流動化、有利子負債の削減）、利益による自己資本の積み上げなどによる自己資本比率の改善（まずは20%以上）

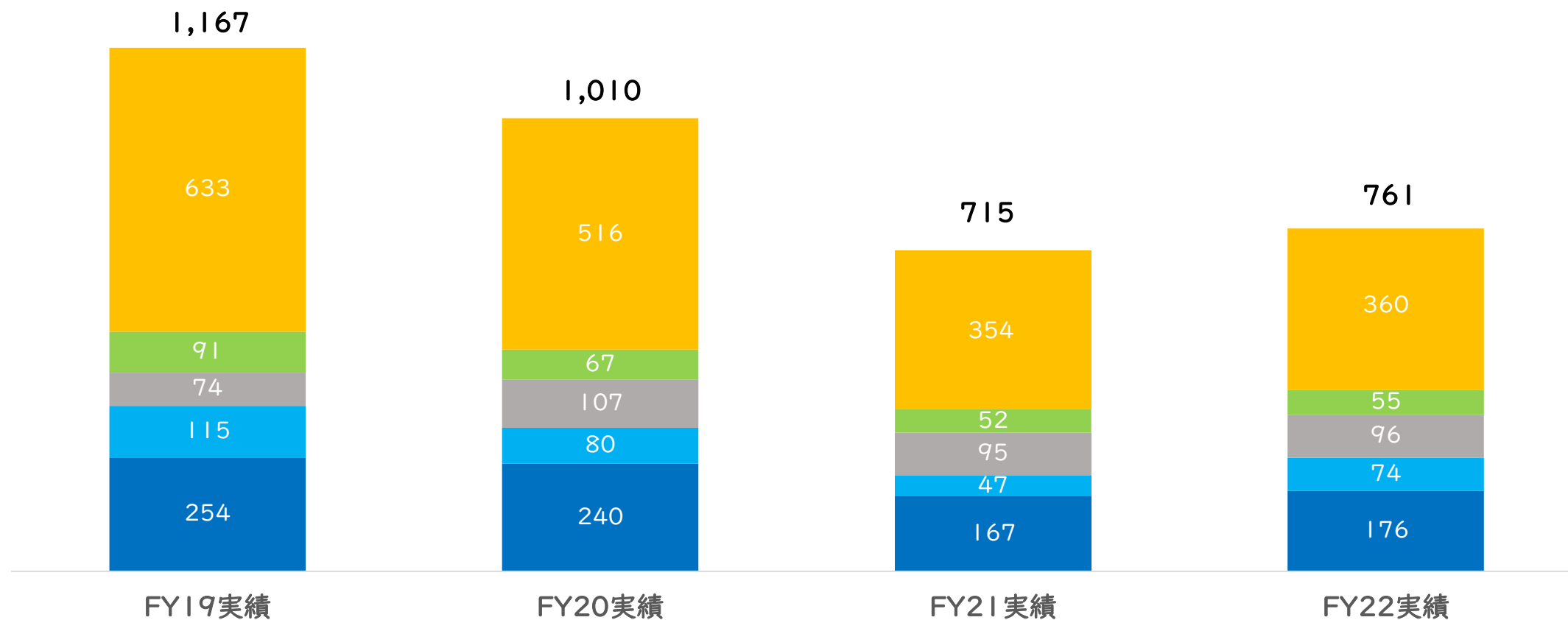
財務施策

NO	内容	詳細	コロナ禍以降 FY22 までに実施済	今後検討予定
1	コスト削減	販管費の削減	スライドP.30をご参照	売上回復に伴い、 機動的に対応予定
2	投資計画の見直し	システム、ホテル、不動産を中心に抑制	当初計画（FY20～FY24）1,434億円 →投資額実績323億円+見込103億円	
3	保有不動産の売却		売却済10軒、 売却収入155億円	残り1軒（簿価8億円）
4	本社社屋の流動化	セールアンドリースバックの手法による 本社社屋の流動化	324億円 (2021年9月実行済)	-
5	グループ会社および事業資産の売却		HTBエナジー(株) (2022年5月実行済) ハウステンボス(株) (2022年9月実行済) H.I.S.SUPER電力(株) (2022年10月実行済)	引き続き検討中
6	新株発行	2021年11月、12月の新規発行分	75億円	-
7	新株予約権	2020年10月発行分の行使	119億円	(未行使分) 25億円
		2021年11月、12月発行分の行使	-	(未行使分) 138億円

販管費の推移

■ 人件費 ■ 賃借料 ■ 減価償却費・のれん償却費 ■ 宣伝費 ■ その他（支払手数料・租税公課等）

（億円）

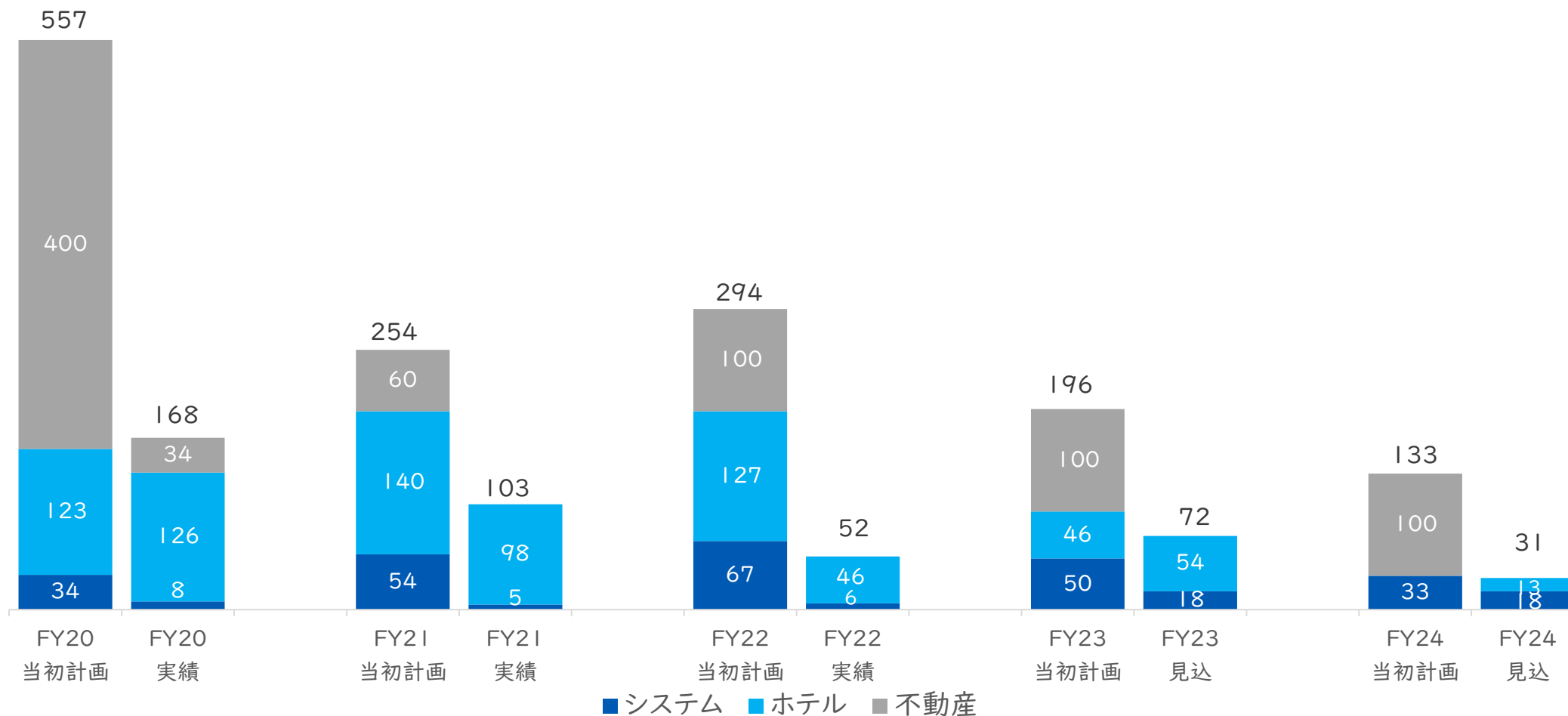


設備投資計画の見直し

設備投資計画

※当初計画は、コロナ禍前 (FY19) に設定した設備投資計画を記載しております。

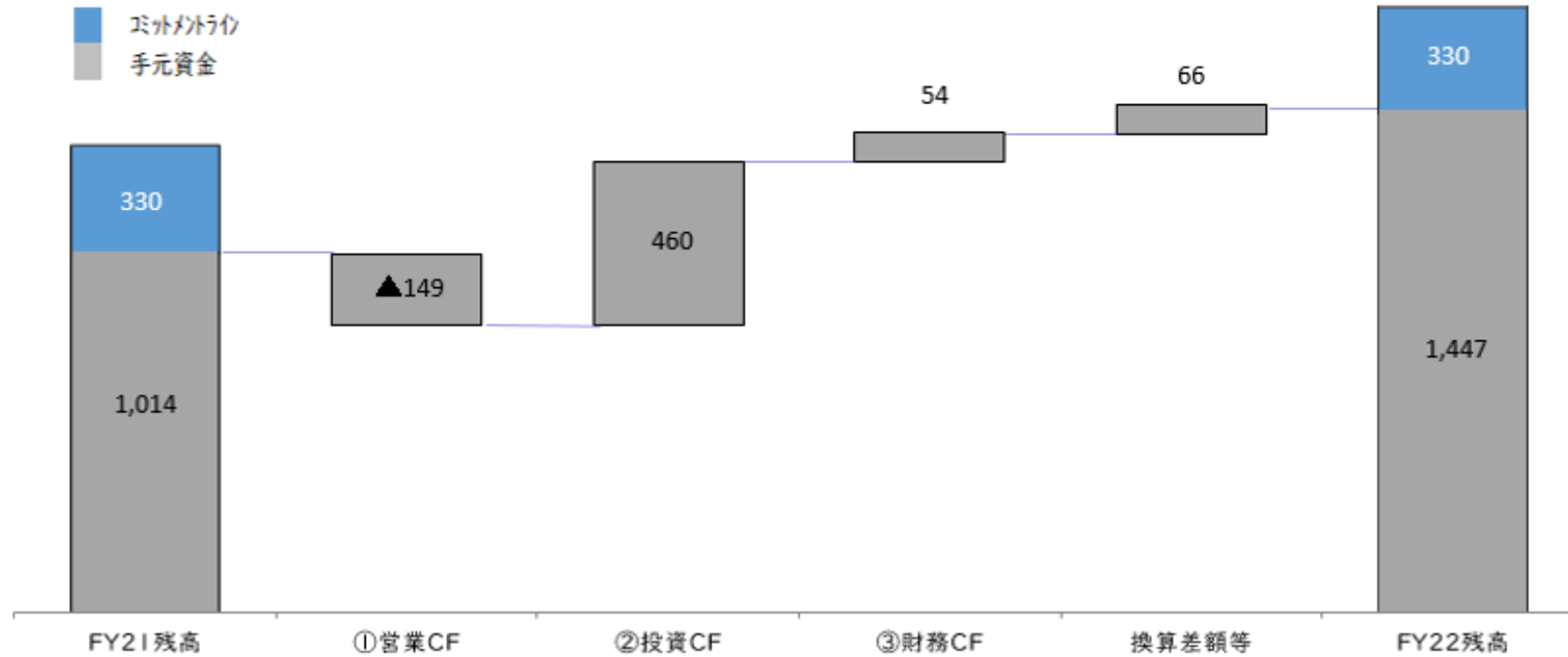
(億円)



■ システム ■ ホテル ■ 不動産
©2022 H.I.S. Co., Ltd. IR Div.

手元流動性

(単位：億円)



コミットライン
330億円
→未使用。
今後も使用予定なし

①営業CF		②投資CF		③財務CF	
税引前当期純損失	▲82	関係会社株式の売却	378	新株発行	75
減価償却費	124	有形・無形固定資産の売却	109		
減損損失	40				
関係会社株式売却損益	▲324				

金融機関の支援状況等

■ 主要取引銀行様

主要取引銀行様からは、変わらずのご支援を頂いております。

■ シンジケートローン

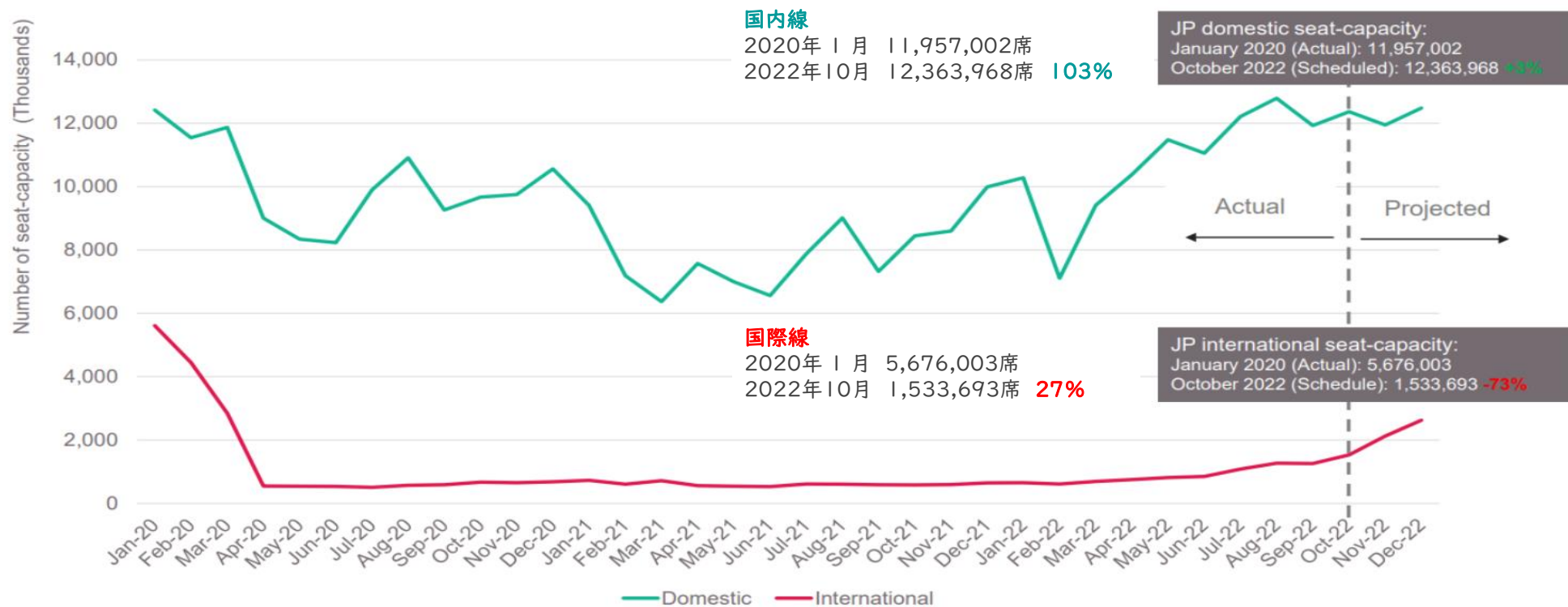
エージェント様を含むシンジケートローン参加行である金融機関様と建設的に協議し、緊密な関係を維持しており、今後も継続的な支援が得られるものと考えております。

4 各事業セグメントの取り組み

旅行事業 当社を取り巻く外部環境①

日本における国内線は、コロナ前水準まで回復 国際線は、コロナ前比70%減

日本の航空座席供給数（2020年1月～2022年12月）



Source: Cirium utilisation data, Schedules, data filed 10 October 2022
 出典：CIRIUM 2022年10月時点

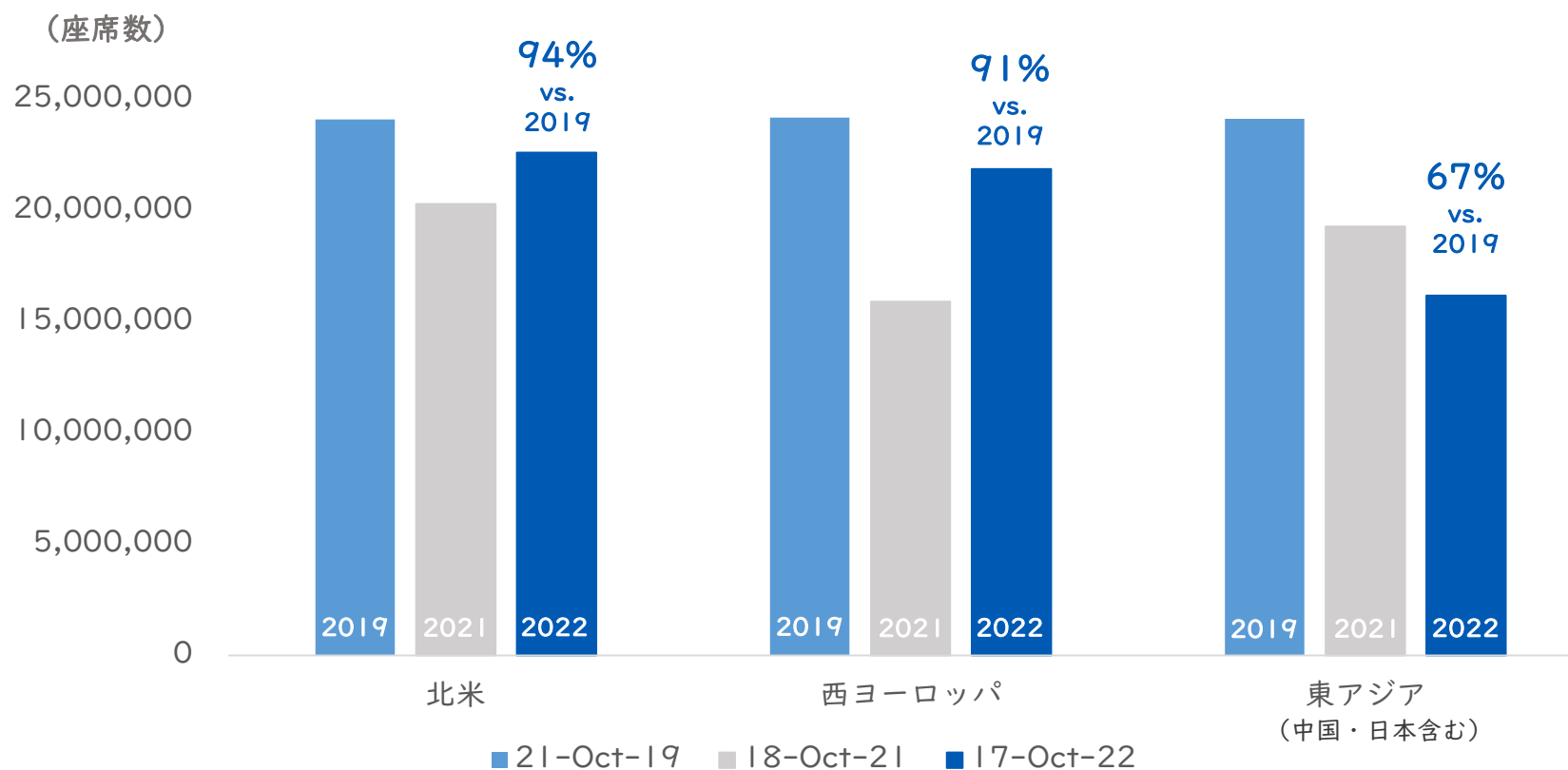
ASCEND
 BY CIRIUM

旅行事業 当社を取り巻く外部環境②

欧米発着を中心に、定期航空便が2019年比 90%以上回復

東アジア発着は、回復が鈍化

地域別定期航空便総座席数（国際線・国内線）上位3地域 2019年/2021年/2022年 比較



出典：OAG

旅行事業 今後の旅行需要と業績回復の想定

海外旅行の回復と国内旅行の底上げにより業績回復へ

FY23上期 → FY23下期 → FY24上期 → FY24下期 → FY25上期 → FY25下期

国内旅行

全国旅行支援の実施により、国内旅行のマインドが回復。2023年以降の延長が決定したことに加え、航空座席供給数も2019年水準に回復。コロナ禍に強化した仕入力・企画力による新たな商品拡充と現場の販売力で、旅行事業の新たな柱へ。

海外旅行

日本発着の国際線座席供給数は、2022年10月時点で7割以上減少、更に燃油サーチャージの高騰や円安など、短期での急回復は予測しづらい状況。一方で、帰国時の陰性証明不要、入国者数の上限撤廃を受け、レジャー需要が徐々に回復。旅行市場が回復している地域に集中し送客の底上げを図るとともに、レジャー利用の多いパッケージツアー比率を高め収益性の改善を目指す。

訪日旅行

入国者数の上限撤廃やビザ免除などの水際対策の緩和に加え、円安も重なり、個人の訪日旅行需要が加速中。回復速度の速い欧米市場の拡大へ向け、海外OTAへの個人旅行商材の掲載を強化し事業の拡大を目指す。

アウトバウンド

世界全体では、2024年には2019年水準に回復すると想定。ローカルマーケットに対しては、OTA化を進め、海外子会社による北米発の需要獲得に注力しつつ、更なる業績回復へ。

インバウンド

回復の早い欧米マーケットの受入れにおいては、欧州の「Group Miki Holdings」・カナダの「Jonview」といった海外子会社による需要獲得に注力しFITから強化。日本マーケットの受入れにおいては、日本発のパッケージツアーの伸びに伴う海外現地法人の回復が鍵。

業績の回復イメージ濃度

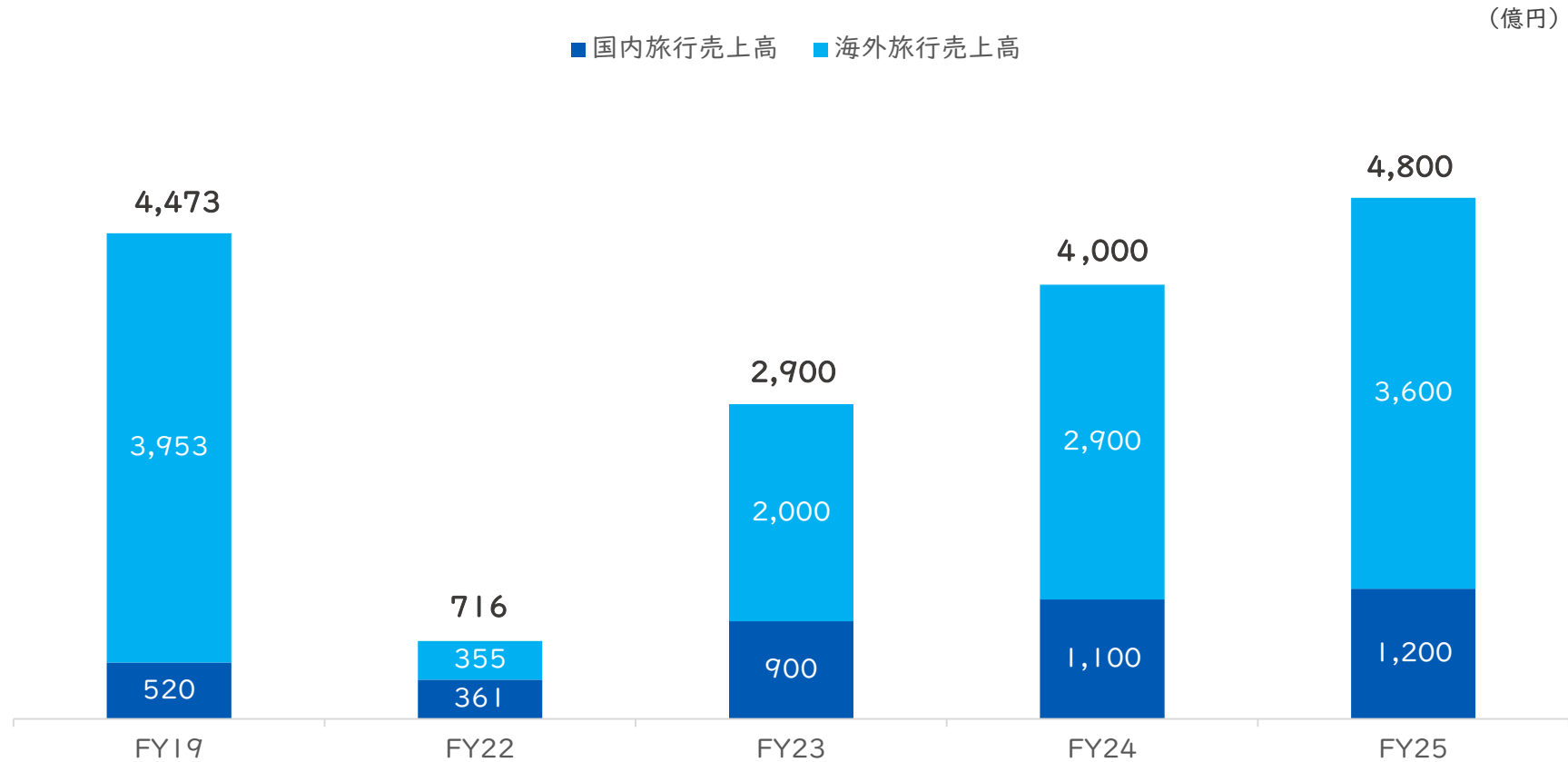
19年を下回る ← 19年水準 → 19年を上回る

©2022 H.I.S. Co., Ltd. IR Div.

日本における旅行事業

FY25にFY19を上回る水準へ

HIS単体の売上高目標（旧会計基準・内部取引相殺消去、調整前・法人営業含む）



日本における旅行事業

旅の不安を解消し旅行需要の回復へ

海外旅行

ハワイ 自由旅行安心パック

緊急時の必要書類の作成をサポート



隔離時



隔離終了後の帰国延長時



入院時

実際にどうなの？ 現地情報

世界のHISから、現地のリアルな情報をお届け



ハワイ

観光客も増え、にぎわいを取り戻しつつあるハワイ。最新レストラン情報など、今の様子を動画も交えてご紹介します。おうちでショッピングを楽しめるオンライン体験も必見。



フランス (パリ)

世界中の人が訪れる観光大国パリ。引き続き外出制限や生活必需品以外のお店は休業要請が続いているそう。コロナ終息後ぜひ訪れてほしい観光地の情報をご紹介します。



ニューヨーク (アメリカ)

洗練されたエンターテインメントで人気のニューヨークにも明るい兆しが見えてきています。新たに登場した観光名所や変化した街の風景をお届けします。



オーストラリア

街ごとに規制内容も異なるオーストラリア。なんと、ほとんどの人がマスクをしていない街も！美しいビーチリゾートであるゴールドコーストから今の様子をご紹介します。

国内旅行

国内旅行先取りクーポン

全国旅行支援第2弾による混雑回避

コロナ感染取消料全額負担

コロナ感染によるキャンセルの不安を解消

初夢フェアも対象!
1月～3月出発なら

＼HISの2大旅行支援！／

旅行代金がさらに!

割引 上限なし **10%割引** クーポン

コロナ感染による取消料を
HISが全額負担!

日本における旅行事業

47の国・地域で海外パッケージツアーを再開 需要創出のプロモーションも展開

※2022年12月時点



「リベンジ旅」を展開

“一度は諦めてしまったけれど、本当はずっと行きたかった場所へ、今年こそ旅していただきたい”
というメッセージを込めたプロモーションを
国内旅行・海外旅行で展開



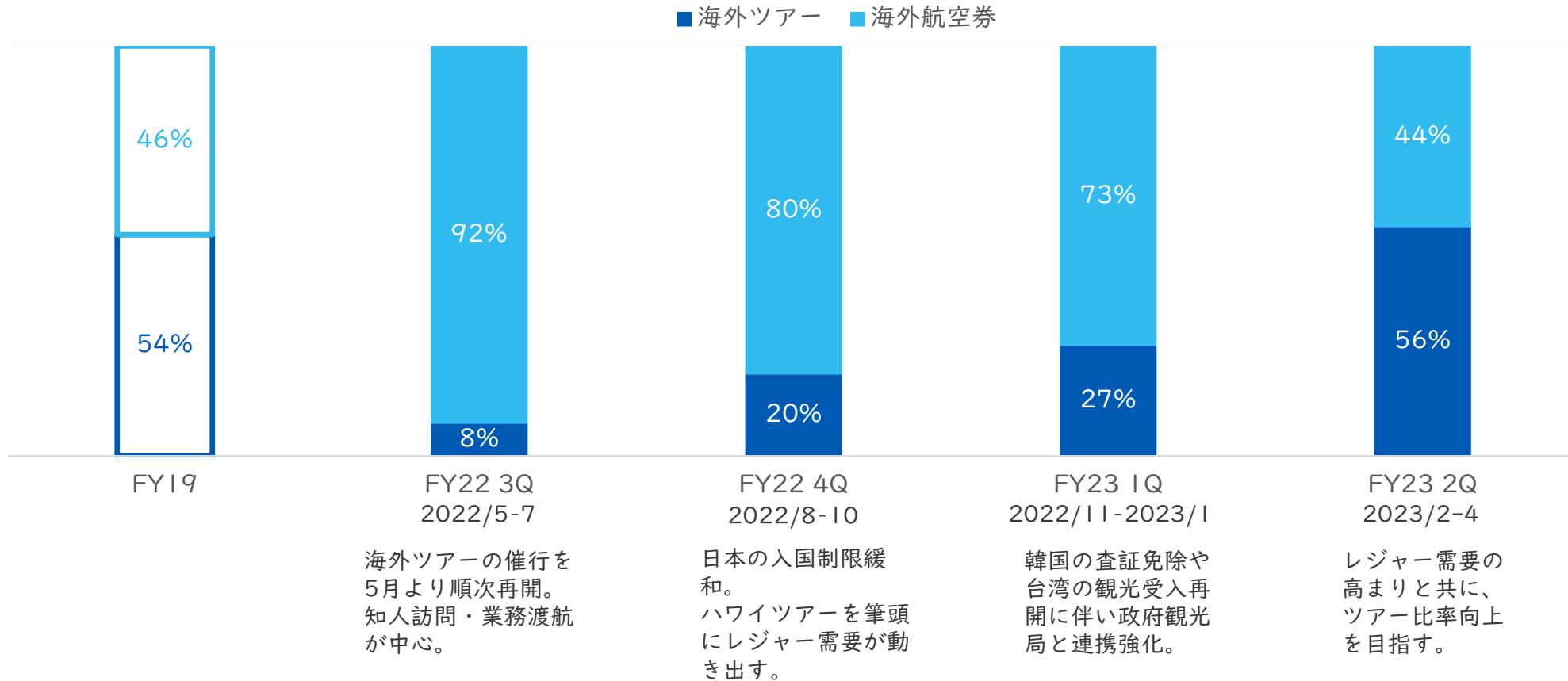
政府観光局とのタイアップ

韓国へのレジャー需要を創出すべく、韓国観光公社とタイアップ。
「韓国解禁キャンペーン」を通じて送客を強化。
年末年始の韓国への送客数は、2019年同日比 48%まで回復(※)。
2022年11月1日以降、査証免除渡航の正式再開と共に、
フライトの複便・増便も進み、早期回復の渡航先へ。
(※) 2022年12月6日時点

日本における旅行事業 海外旅行

パッケージツアー比率を高め収益性の改善を目指す

海外ツアーと海外航空券の売上高構成比（HIS単体 2022年11月30日 予約時点）



HISグループでしか体験できない旅の提供 - 誰もがいける宇宙の入口への旅 -

気球型宇宙船「ネプチューン」の日本・カナダでの販売権契約締結



画像提供：Space Perspective

先駆的な新しいテクノロジーと、世界で活躍するスペースバルーンの専門家による宇宙飛行体験を2024年後半より提供予定。
スペースバルーンを用いた高度約30kmの宇宙の入り口までの旅は、無重力にはならないため、参加者の事前トレーニングや、年齢制限・体重制限などもなく、誰でも参加いただくことが可能。

持続可能な観光の提供 - 新しい旅「レスポンスブル・ツーリズム」の推進 -

「マラマハワイ」をスローガンにハワイの歴史・文化・自然を再発見するツアーを企画



ハワイ州が取り組むハワイの自然保全、文化継承、地域社会に貢献する観光の促進に賛同し、

日本の旅行会社で初となるハワイ州観光局とのパートナーシップ契約を締結。

ハワイ語で思いやる心を意味する「マラマハワイ」をスローガンに掲げ、ハワイの歴史・文化・自然を再発見するツアーを企画し、

レスポンスブル・ツーリズム（責任ある観光）、及びリジェネラティブ・ツーリズム（再生型観光）を推進。

日本全国のHIS店舗を「ハワイ州観光局公認サテライトオフィス」として、ハワイに精通したプロのコンサルティングで、ハワイへの送客に貢献。

法人営業でも社員旅行・インセンティブ旅行として提案。

日本における旅行事業 国内旅行

国内パッケージツアーは強化方面の選択と集中で利益の最大化へ



【年末年始】沖縄・北海道の旅行予約動向：116.7%（2019年同日比）※2022年12月6日時点

HISでしか提供できない独自プランで差別化へ

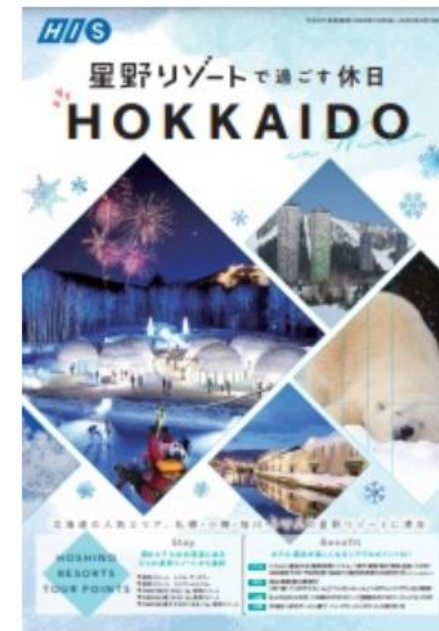
沖縄



独自仕入による沖縄本島レンタカー在庫確保プランを展開

コロナ禍で生じたレンタカー不足を解消すべく、
沖縄本島と宮古島において、
HIS独自のレンタカー在庫を確保したレンタカープランを提供。

北海道



星野リゾート宿泊専用パンフレット（2022年・冬バージョン）

宿泊施設とコラボレーション

北海道最大級の滞在型リゾート「星野リゾート トマム」
とのコラボレーション企画を皮切りに、
北海道にある5つの「星野リゾート」の販売を強化

日本における旅行事業 国内旅行

人気アーティストとのコラボレーションによるブランディング強化

ダンス&ボーカルグループGENERATIONS from EXILE TRIBEとコラボした沖縄ツアー「GENE旅」発売



「GENE旅」では、メンバーが実際に満喫した沖縄旅行と同じ体験ができる魅力に加え、新しい沖縄の楽しみ方をメンバー目線で紹介。GENERATIONSファンの方はもちろんのこと、沖縄旅行が初心者の方からリピーターの方まで、自分好みの沖縄旅行を選択できるツアー内容を展開。

日本における旅行事業 国内旅行

コロナ禍においても FY22 で、黒字化を達成



オリオンツアー スキー・スノーボード ツアーイメージ

株式会社オリオンツアー

主力となる冬のスキー・スノーボードをはじめ、ダイビングツアーなど、スポーツ系のツアーを展開。高速路線バス・日帰りバスツアーなど、グループで提供。



『LeaLea OKINAWAシャトルバス』・『LeaLeaラウンジ OKINAWA』イメージ

株式会社エイチ・アイ・エス沖縄

沖縄における着地型旅行の強化と旅ナカのインフラに投資。沖縄に訪れたお客様へ体験型アクティビティを提供し、沖縄の地域の魅力を広め、更なる価値を創造。

日本における旅行事業

シニア・ファミリー層へ 2023年GWのレジャー需要を創出

HIS・クルーズプラネット・ベストワンクルーズ 3社による外国船チャータークルーズを展開



The advertisement features a large cruise ship sailing on the ocean. The text is in Japanese and includes the MSC Cruises logo. The main title is '南国薩摩と石垣島・那覇・台湾 美ら海クルーズ 9日間' (Nanpaku Satsuma and Ishigaki Island, Naha, Taiwan, Muraumi Cruise 9 Days). A departure schedule table is shown at the bottom.

出発		帰省						
4/29	30	5/1	2	3	4	5	6	7
(土・祝)	(日)	(月)	(火)	(水・祝)	(木・祝)	(金・祝)	(土)	(日)

2023年のGWチャータークルーズをコロナ禍以降初の催行において展開。

すでに、HIS・クルーズプラネットによる予約進捗は、66%（2022年12月5日時点）。

GWの日並びの良さ、円安や燃油高騰などの影響も少なく、食事・エンタメ付の価格で楽しめるクルーズ旅行の魅力を発信し、3社で満席（5,000名）の販売を目指す。

日本における旅行事業

圧倒的な利便性で差別化することで、旅マエの不安を解消し更なる単価向上へ

お客様が担当者を選べる“オンリーワン”のサービス「旅行相談 コンサルタント指名予約」

旅行相談 コンサルタント指名予約

相談方法・店舗
ビデオチャット・電話・店舗など

相談方法 > 来店・電話・オンライン相談

相談日
年/月/日

相談開始時間
時間指定なし

相談開始時間
時間指定なし

希望するコンサルタントの条件

得意な方面
海外・国内・クルーズ旅行など

特徴
経歴・性別・性格など

得意な旅行タイプ
家族旅行・女子旅

フリーワード
観光地名・テーマ

家族旅行 家族旅行 (乳幼児含む)

学生旅行 一人旅

夫婦・カップル旅行 ハネムーン

10名以上の団体旅行 女子旅

男子旅 友人との旅行

出張・業務旅行 シニア旅行

留学

検索

検索結果 13名

MA
新晋本社営業所 海外旅行専門
店 別館

自称「南の島リゾート専門」です。リゾートの「砂の色」の違いもお答えします！

相談可能店舗
新晋本社営業所 海外旅行専門
店

得意な方面
フィジー インドネシア シヤマイカ モルディブ ニューカレドニア
タヒチ アメリカ合衆国

得意な旅行タイプ
家族旅行 学生旅行 ハネムーン 女子旅

得意な旅行スタイル
前のめり積極派 準備は大切 計画派 何はともあれ気まま派

相談予約

プロフィール詳細

T.N
新晋本社営業所 海外旅行専門
店
新晋本社営業所 国内旅行専門
店 別館

国内旅行経験豊富です！一緒に旅行を組み立てましょう！

相談可能店舗
新晋本社営業所 海外旅行専門
店 ・ 新晋本社営業所 国内旅行専門
店

得意な方面
サイパン・テニアン・ロタ 北海道 岩手県 宮城県 福島県 茨城県
栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 富山県 石川県 福
井県 山梨県 三重県 京都府 大阪府 兵庫県 和歌山県 福岡県 佐賀
県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県 沖縄県

得意な旅行タイプ
家族旅行 家族旅行 (乳幼児含む) 学生旅行 夫婦・カップル旅行
ハネムーン 10名以上の団体旅行 女子旅 男子旅 友人との旅行 出
張・業務旅行 シニア旅行

得意な旅行スタイル
準備は大切 計画派

相談予約

プロフィール詳細

(HISホームページ 旅行相談 コンサルタント指名予約ページ・イメージ)

- サービス開始：2022年3月
- 対応チャネル：全国・全店舗、コールセンター、ビデオチャット
- 即日対応：可能

訪日旅行再開を今後のシェア拡大の好機に

現地旅行会社と連携し、大型グループ旅行の受注を強化

【現地旅行会社提携一例】



<受注例>

- ・ 2023年、2024年 シリーズツアー多数コース設定済み

- 欧米、アジア富裕者層の取り込み
- 内容、質重視の「体験型」高価格商品の販促
- 更なる需要拡大に向けて、新規ガイド獲得・育成に着手

<商品一例>

12日間体験重視コース(東京4泊、加賀1泊、高山1泊、京都4泊)

※催行人数最大22名

ツアーハイライト

- ・ すし職人の技を鑑賞し、鮨や刺身の作り方を学ぶ
- ・ 富士山を一望できる箱根までのドライブ
- ・ 東京から金沢は新幹線に乘車。加賀では伝統旅館に宿泊
- ・ 高山の伝統的建造物群保存地区をウォーキング観光
- ・ 京都では徳川家の居城「二条城」、壮大な金閣寺を訪問
- ・ 京都のお茶屋で舞妓、芸妓さんの踊りを鑑賞しながらの夕食
- ・ 世界遺産が8箇所ある古都奈良を訪問

訪日旅行再開を今後のシェア拡大の好機に

海外OTAとの連携により個人旅行の取り込み強化

【海外OTA取引一例】



【関東発売れ筋商品一例】

自社主催 富士箱根1日バスツアー



- 体験、アクティビティ予約の海外OTAサイトへ商材投入強化し、流通させることで集客最大化へ
- 日本未進出のOTAへアプローチし、他社との差別化を図る王道コースを他社に先駆けて投入し、収益源に
 - ・ 昨年HISグループのGroup Miki Holdingsが子会社化したCEETIZとの新規取引スタート。
 - ・ その他東南アジアOTAなどへのアプローチも進行中。
- 1DAYバスツアーを中心としたオプション強化
 - ・ 国内旅行事業部と連携し、自社主催商品の販促と利益率の高い商品造成
 - ・ 反響が高いコースにおいては、増席と単価を上げて販売
 - ・ 「富士山」関連ツアーのラインナップを増やし、富士山の自然、歴史、文化に触れられるコンテンツの充実へ

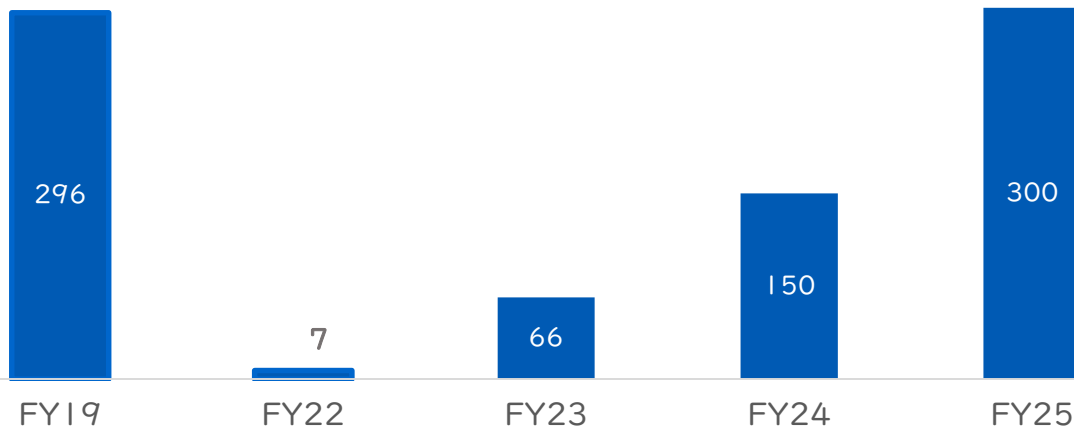
日本における旅行事業 訪日旅行

訪日旅行再開を今後のシェア拡大の好機に

HISグループ訪日旅行事業売上高目標 (旧会計基準・内部取引相殺消去、調整前)



(億円)



企業インセンティブ、研修旅行の取り込み強化

■ 海外現地法人と連携し、大型案件受注に向けての営業活動強化、

他社のシェアを勝ち取る

- ・ 日系企業インセンティブ旅行の積極的受注。
- ・ JAPAN TREK (日本での課外授業) の受注。
バス、ホテル手配、受け入れサポートなど
アメリカ某有名大学複数校より受注済み

自治体・行政機関との連携強化

■ 原宿Tourist Information Center (TIC) での旅ナカの自治体プロモーション事業

<実施例>

- ・ 鳥取県、鹿児島県観光連盟 TICでのオフラインイベントとWEBページ制作、SNS投稿などのオンラインプロモーション
- ・ 観光庁「DXを活用した外国人観光案内所機能強化実証事業」

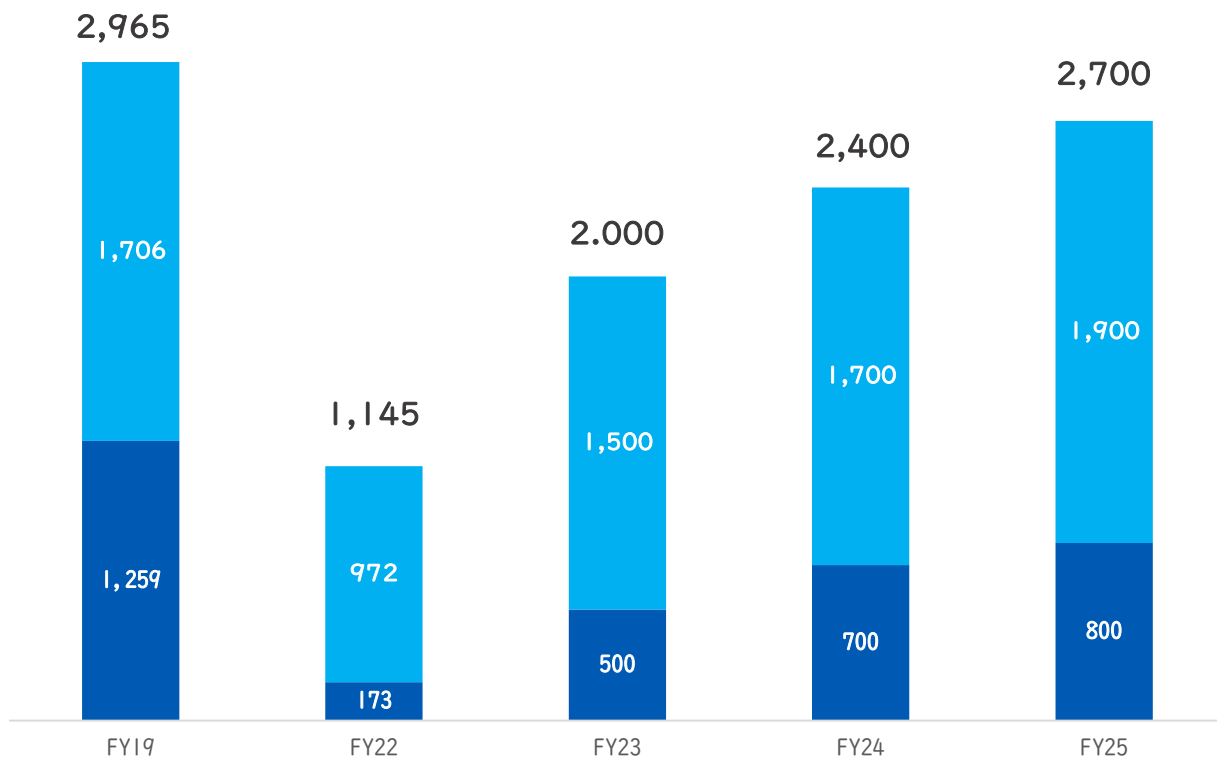
海外における旅行事業

積極的なM&Aによりローカルマーケットを拡大

売上高目標 (旧会計基準・内部取引相殺消去、調整前)

(億円)

■ HIS海外現地法人 ■ 海外子会社



主な事業戦略

ローカルのアウトバウンド事業は
M&Aした子会社を中心に展開



HIS現地法人のリソースは
インバウンド事業に集中

収益性および即効性への投資

海外における旅行事業

新規ビジネスとグローバルマーケットをHIS JAPANからの受客規模へ成長

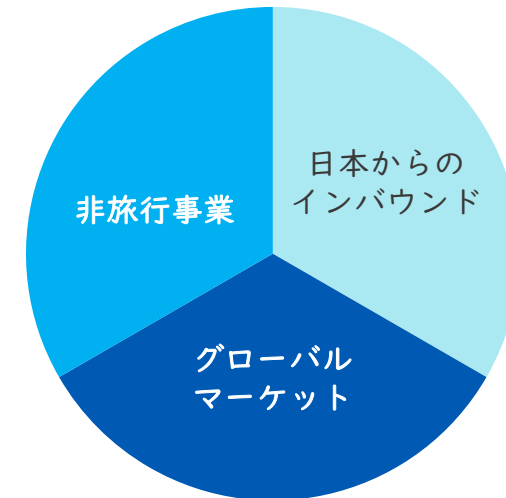
海外の事業におけるポートフォリオの再構築

日本から送客されたインバウンドに依存



グローバルマーケットと非旅行事業を
日本からのインバウンドと同規模へ

中長期の利益構造イメージ



「1 : 1 : 1」へ

旅行関連事業

オンライン体験ツアー



サブスクプログラム IKU×MIRU (イクミル)

約150コースを定額見放題プランで提供。

個人顧客の新規獲得と安定収入。

企業様向けの福利厚生プランとしてのコースも。

グランピング



(GRAMHIDE WITH DOG KOMATSU外観・イメージ)

GRAMHIDE WITH DOG KOMATSU

2022年10月グランドオープン

愛犬と一緒に過ごすための専用グランピング施設。

隣接する旅館「満天ノ辻のや」の温泉や食事も楽しめる。

他業種間との提携・M&Aによる事業領域の拡大

グループ会社が堅調に推移。今後の非旅行事業のポートフォリオ再構築を牽引



Canadian College & CCEL(専門学校・語学学校/カナダ)

H.I.S. Mobile株式会社(通信)

株式会社エス・ワイ・エス(予約システム提供)

コロナ禍においても**黒字化**を達成。



2022年9月「HISデバイスサポートパック」を開始。

株式会社光通信(HTBエネルギー株式譲渡先 株式会社HBD 親会社)

と共同で商品造成。

ビジネスネットワークが拡大したHIS現地法人の更なる進化



(子供服販売・イメージ)

タイ 子供服ショップ「満天堂」

2022年10月オープン

ベビー・子供用品ブランド「西松屋」の子供服などを販売

現在8店舗を展開

タイ

Hannari Cafe de Kyoto (飲食)
学研(教室)・LOGOS(アウトドア用品)
アイリスオーヤマ(家電)



(Hannari Cafe de Kyoto・イメージ)

ヨーロッパ

日本酒販売・日本食アンテナショップ



(ドイツ 日本酒販売・イメージ)

インドネシア

フェニックスワーム事業



(フェニックスワーム事業・イメージ)

ハワイ

不動産事業



(HAWAII SQUARE 不動産事業イメージ)

非旅行事業

既存リソースの提供

自治体・行政・企業との連携

各自治体・行政・企業へHISのノウハウを活かしたサービスを提供



(マイナンバー促進事業・イメージ)



(MICE運営・イメージ)

受注例

マイナンバー促進事業

八王子市・あきる野市（東京都）
北九州市（福岡県）
静岡市（静岡県）
東広島市（広島県）

プレミアム付商品券事業

鶴ヶ島市（埼玉県）
笠間市（茨城県）

JETRO

食品サンプルショールーム（台湾）
オンライン商談会（国内外）

東京都PCR等無料化事業事務局運営

海外進出支援

ライツ事業の展開

日本の価値ある事業・モノを海外にブランド展開



パンとエスプレッソと

人気のベーカリーカフェ



100時間カレー

神田カレーグランプリでV2

HIS現地法人と法人営業本部が連携

「海外企業とのマッチング」

「店舗視察」

「フランチャイズ契約」

非旅行事業

人材派遣



農業分野への人材派遣・イメージ

株式会社グリーンオーシャン

外国人採用100名体制へ
農家+宿泊施設への派遣強化
北海道・九州に新国内拠点
ビザ申請・派遣人材管理のDX化

飲食

満天ノ秀そば



『満天ノ秀そば』四ツ谷店 イメージ

満天ノ秀そば・つけそば専門店 満天・天麩羅専門店 満天

3ブランド5店舗を運営
変なホテルの朝食会場としても2店舗運営
観光地への出店も展開予定

テーマパーク事業 ラグーナテンボス

お客様が求める旬なサービス・商品の提供



©ABC-A・東映アニメーション

デリシャスパーティ♡プリキュア デリシャスマイル～！フルコース♡in ラグーナテンボス

2022年10月8日～2023年1月9日

「デリシャスパーティ♡プリキュア」の体験型テーマイベント。
ミニステージ、アトラクション、ワークショップの他
オリジナルグッズ販売を実施。



ラグーナイルミネーション「光のラグーン」

2022年11月5日～2023年2月28日

色とりどりのランタンイルミネーションや、
100万球を超える「幸運のレインボーアーチ」、
アトラクションに施される「ステライルミネーション」など、
園内全体が光の世界に包まれるイベント。冬季期間の集客強化へ。

九州産交グループ

中核事業 バス事業の黒字化

熊本路線バス事業の赤字縮小

- ・ 熊本県内5社共同経営の推進による路線再編
- ・ バス乗車機会創出のための「子供無料の日」開催

高速バス事業の黒字化

- ・ 高速バス利用の宿泊商品販売強化
- ・ 空港リムジンバス、観光路線のインバウンド対応
- ・ 主力路線 ひのくに号（熊本-福岡間）新路線の開設（拡大）



熊本「火の国」をモチーフにしたカラーリングのバス車両
（イメージ）

「サクラマチクマモト」の来館強化

2023年来館者数目標 年間1,300万人
（前年比123.5%）

- ・ 自社主催のイベント開催の強化
- ・ テナントリーシング活動の活性化



大型商業施設「サクラマチクマモト」
（イメージ）

ホテル事業

既存ホテルの収益最大化 各国の市況にあわせホテル各社は個別展開へ

変なホテルブランド（国内）は、効率的な運営・差別化を強化し、客室単価上昇を図る。
清掃費やリネン費、客室備品費、広告費など、費用対効果を見定めた削減を継続して徹底。

今後の開業計画

所在地	開業
変なホテル鹿児島 天文館	2022年12月
変なホテルエクスプレス名古屋 伏見駅前	2022年12月
カッパドキア（トルコ）	2023年（予定）



（ホテルインスピラ-S タシケント・イメージ）



（ヴィソンホテルズ(ホテル棟)・イメージ）

11月単月黒字化・既存ホテル

「ヴィソンホテルズ」三重県多気町

東海圏中心に集客は好調に推移。
今後は、関東・関西を中心に全国への認知向上、営業強化を図る。

「変なホテル ニューヨーク」アメリカ ニューヨーク

経済活動の回復が著しく、稼働率が好調。
大型コンベンション開催予定もありビジネス需要の取り込みを強化。

「変なホテル ソウル」韓国 ソウル

規制緩和に伴い、日本を含むインバウンド需要が復調傾向。
今後、国内・海外ともに取り込みを強化。

「インスピラ-S タシケント」ウズベキスタン タシケント

国内コーポレートやスポーツ団体の需要が好調。
今後、全世界からのインバウンド需要の取り込みも見込まれる。

業績予想

コロナ禍の影響を現時点で合理的に算定することが困難であることから「未定」とさせていただきます。

業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

本資料には、当社の将来の営業活動、業績の見通し等の将来予測に関する記述が含まれています。かかる将来予測に関する記述は作成段階において入手可能な情報を基に当社経営陣が判断したものであり、様々なリスク要因や不確実性を持ちます。実際の営業成績や財務状態は、これらの将来予測において示唆されたものとは、著しく異なる可能性があります。従って、これらの将来予測に関する記述を過度に信頼することのないようご留意下さい。また、当社は新しい情報、将来の事象又は新たな知見に応じて将来予測を変更する責任を負うものではありません。



本資料に関するお問い合わせは、弊社IR室までご連絡ください。